

國學院短期大学と北海道・滝川市とのコミュニケーション誌

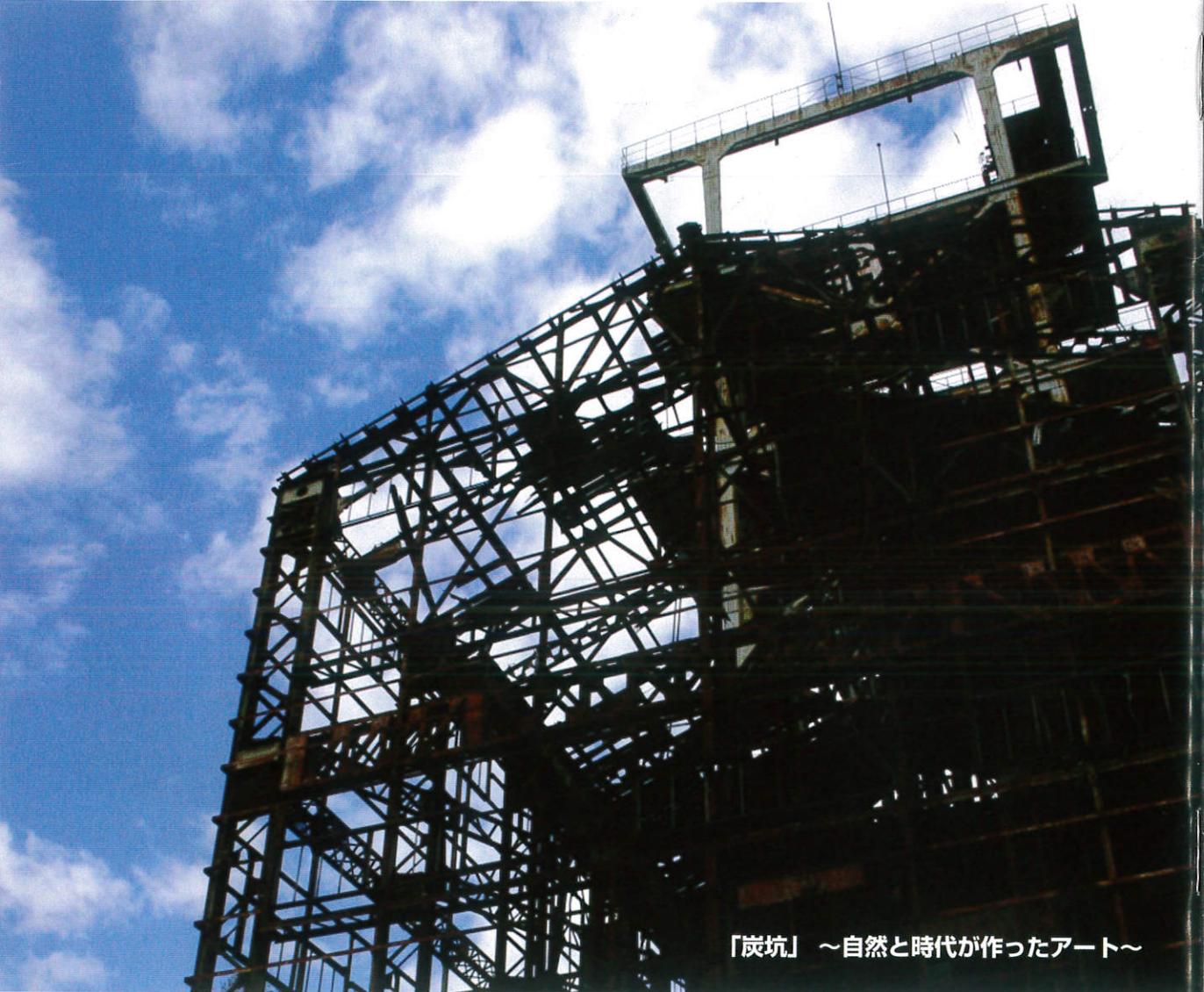
北海道 CATY

キャティ

No.10

2006・AUTUMN

● 企業探究・北海道新聞社 ● 人物探究・猪股栄三氏 ● CLUB CATY TOKYO ほか



「炭坑」 ～自然と時代が作ったアート～



～地域との共生、社会に学ぶ～

北海道・滝川市

國學院短期大学



奔別炭鉱・立坑櫓 〈表紙写真：赤松 美由紀〉

CONTENTS:

がんばれ滝川市民！～滝川市民吹奏楽団を知ろう～ 2

企業探究・北海道新聞社に迫る！ 4

人物探究・猪股栄三氏 その軌跡 10

「好き」からはじまった10年 私たちの街の動物園を守ろう！旭山動物園くらぶ 16

北海道遺産「炭鉱」～自然と時代が作ったアート～ 18

中空知温泉巡り 4 北の京声別 (きたのみやこあしべつ) 20

アートチャレンジ滝川 21

先輩に学べ！OB・OGインタビュー 22

インターンシップ 26

短大ニュース 28

児童教育コース開設・國學院短期大学入学試験日程 29

読書の秋・隠れた名作 30

キャンパス情報 2006年4月～10月 32

CLUB CATY TOKYO

キャリアデザイン特別講演会・國學院大學総合企画部 浜田順一部長に聞く 33

アサヒビール株式会社常務取締役 泉谷直木氏 インタビュー 34

株式会社テレビ朝日番組審査室長 木村寿行氏 インタビュー 36

日本文化の発信拠点を目指して・國學院大學 青木周平教授 インタビュー 38

北海道CATY (キャティ) について

CAmpusとciTYからCATYの名前が生まれました。北海道CATYは國學院短期大学と滝川市の相互理解と交流促進をさらに図る目的で発行するコミュニケーション誌として、その役割を担うことになりました。本誌は國學院短期大学の学生が中心となり編集制作をし、年2回発行(3月・11月)を予定しています。

がんばれ滝川市民！～滝川市民吹奏楽団を知ろう～



滝川市には様々な市民団体があるのをご存知でしょうか？年齢の近い仲間と活動する中学校や高校の部活動とも異なり、学生を始め、一般企業関係、公務員などの幅広い職業や世代の人々が集まっています。そして一つの目標に向かい、同じ時間を共有して日々活動しています。今回は、その中から滝川市民吹奏楽団(通称：滝吹)を紹介したいと思います。

滝吹の歴史・活動を知りたい！

昭和46年4月、地域の音楽文化の発展向上、青少年の健全育成を目的に「滝川青少年吹奏楽協会」として発足しました。創立当時より、吹奏楽コンクールや各種イベントのアトラクションなどを中心に活動し、昭和49年「滝川青少年吹奏楽団」、昭和54年には、より親しまれるバンドを目指して「滝川市民吹奏楽団」へと改称し、現在に至っています。

・平成18年度の活動・

- 6月4日 北海道植樹祭オープニングセレモニー 出演
- 6月18日 こあらの音楽室 出演
- 8月6日 空知地区吹奏楽コンクール 金賞・代表
- 9月3日 北海道吹奏楽コンクール 銀賞

代表 森 昌之さんにお話を伺いました。

滝吹に入ろうと思ったきっかけは何ですか？

音楽・吹奏楽が好きだったからです。私は昭和54年に入団したので、もう長いこと滝吹にいます。

滝吹の特徴はどのような点でしょうか？

やはり、下は10代から上は50代の幅広い年代の団員が、一つの目標に向かい、真面目に音楽に取り組んでいることで

す。このようなことは普段ではあまり無いのでそれが面白いし、大きな特徴だと思います。

これからの意気込みを聞かせてください。

12月の定期演奏会に向けて、コンクールで培った技術向上の精神をいかして、演奏会のテーマ「温故知新」のもと、市民や地域の皆さんに楽しく聞いていただけるような演奏が出来るように頑張っていきたいです。

ありがとうございました。

今後は、12月10日に予定されている第34回定期演奏会の練習を中心に、また地域貢献として、滝川市やその近郊の市のイベントに参加できるよう活動していくそうです。機会があれば、歴史ある滝川市民吹奏楽団の演奏を聴いてみてはいかがでしょうか？



企業探究・ 北海道新聞社に迫る！



星真寿己氏



広瀬兼三氏

支局の場所は社会的情勢を反映して決められています。基本は警察署などの行政機関が多く集積しているところです。炭鉱が栄えていた時には空知などの産炭地に多くの支局がありました。そのような場所にある支局は人口が減り、廃局になってしまったところもあります。だからといって、全てがそうであるわけではありません。夕張（ゆうばり）市は炭鉱で栄えていた時には約11万の人口がありました。今ではその10分の1しかありません。しかし、支局撤退はしていません。財政危機に直面する夕張市の今後を見つめていくためにも支局は欠かせ

ないからです。また、支局はその所在地の周辺地域の出来事もカバーしています。海外支局も同様に世の中の情勢によって場所が決められています。支局は取材の場ですから、社会的背景（政治、経済、社会的な情勢）が重要なのです。特にこの北海道はロシアとの関係が深いので、モスクワ・ユジノサハリンスクに海外支局があります。

販売所の仕事になります。販売所はそれだけで一つの独立経営体です。新聞社とは取引契約を結んで、新聞を卸してもらっているのです。道内にはこのような独自経営をしている販売所が約650カ所あるのです。そして、新聞社内の販売所が販売所と連絡を取り合っています。読者と新聞社とを繋ぐのが販売所です。新聞社の足であり一番の支えという、読者と接触するとても大切な場所なのです。

●支局の場所の基準

●新聞社と販売所の役割

●北海道新聞の特徴

企業探究・ 北海道新聞社に迫る！



北海道の情報・文化の担い手の北海道新聞社。道新の歴史は古く、北海道新聞の源流となる「北海新聞」が1887年、札幌で創刊されました。その後、1942年11月1日に道内の11紙が「一県一紙」の国の方針で戦時下に統合して現在の「北海道新聞」が創刊されました。それから長い間、北海道民の生活と向上に寄与してきました。また、北海道文化放送、エフエム北海道などを設立し、道内メディアの中核企業といえるでしょう。メディアだけではなく、イベントなど多方面にわたり北海道に対して貢献している道新は、果たしてどのような会社なのか？今回は道新にスポットを当てて探究しました。そこで北海道新聞社・経営企画室 室次長の広瀬兼三氏と部次長の星真寿己氏にお話を伺いました。

●本社・支社・支局・駐在の業務内容の違い

北海道新聞社は、本社（札幌）、支社（道内8カ所と東京、大阪）、総・支局（道内39カ所）、海外支局（10カ所）、印刷工場（6カ所）で構成されています。本社は編集局、販売局、印刷局など新聞を作り、販売所に新

会社概要

創立	1942年11月1日
資本金	3億4,650万円
社長	菊池育夫
事業内容	北海道新聞の発行、その他単行本刊行
従業員	1,569人（2006年10月現在）
売上高	658億円（2006年3月期）

このうち販売収入が50%強、広告収入40%強、その他が事業局などのイベントや出版、ニューメディアによる収入です。これらの特徴として、販売収入は景気変動を受けにくいのですが広告収入は直接影響を受けてしまいます。また、インターネットなどのデジタルメディアに広告収入が流れています。一方でインターネットの広告費はラジオ業界を抜いており、道新もホームページでの広告が増えています。

企業探究・北海道新聞社に迫る！

●道新の普及率は50%。占有率は70%ほどですが、このシェア維持の秘訣とは？

新聞社と道新グループがどのような係わり合いがあるのかというと、TVやFMについてはニュース番組などで、北海道新聞のニュースを流すことがあります。広告については道新グループ内の広告会社と連携していますが、グループに限らず、他の何十という広告会社とも関わっています。

●道新グループについて

資本関係には、UHBについては大株主として道新が出資しています。また、FM北海道のほうにも10%ほど出資している形になります。

を定める人、字を直す人など、新聞社は「職種のデパート」と言われるほど、仕事の内容は多岐にわたっています。それほど、新聞を作るといことは大変なことなのです。

●日本ABC協会とは？

また道新の特徴でお話ししましたが、北海道の地に密着している新聞だからということが一番だと思えます。ですから道民の方は紙面を見て、読む新聞を判断してください。

●紙面構成について

全国の主な新聞社や出版社、広告会社などがこの協会に加盟しています。Audit（公査）Bureau（機構）of Circulations（部数）の略で、新聞や雑誌の発行部数をチェックしています。正確な発行部数は、広告スペースの売り手である発行社、買い手である広告主、それを仲

介する広告会社にとってマーケティングをする上で欠かせない数字です。自称ではない第三者が正確な数字を算出することが、この機関の仕事です。

現在、700社ほど加盟していて、それぞれがABC協会に加盟しているということで、信頼の証を得ています。もちろん道新も加盟していて1,207,879部（2006年9月現在）という正確な発行部数が出されています。

また号外の印刷部数に関しては地域号外の場合や、関心度によって変化するため一概に言えません。駒大苫小牧のときは13万部以上印刷しました。号外を作るうえで一番苦労するのは時間に制約があることです。いつもの紙面制作時間に比べてはるかに短い時間で、事実のみを伝える号外を素早く作り上げます。

各新聞の販売部数比較（2006年9月 ABC協会調べ）

全国紙	販売部数
朝日新聞	804万部
産業経済新聞	218万部
日本経済新聞	303万部
毎日新聞	395万部
読売新聞	1001万部

ブロック紙	販売部数
中日新聞	274万部
東京新聞	58万部
西日本新聞	84万部
北海道新聞	120万部

全国紙とは？

全国向けにニュースを報じる新聞。地方の情報は地方紙に比べて少ない。

ブロック紙とは？

特定の地方を領域とする新聞で、販売地域が複数の都府県にまたがる地方紙。ただし道新の場合は例外である。

方紙に劣ります。しかし、北海道新聞は一紙で全ての情報が手に入ってしまうのです。

道新には紙面のレイアウト部門などを含めて600人を超す記者職の人がいます。北海道には地域特性があり、きめ細かな取材をするには、記者をたくさん置かなければいけません。ですから北海道民のためには、きめ細かな取材が必要と考え、道新はこのような体制をとっています。

そして一番の特徴は、北海道新聞の地方版が約70種類もあるということ。支局が39カ所もあるように、北海道とともにある北海道に根ざした新聞であるということが、ここから分かります。札幌などのような大都市の情報だけに片寄らず、大都市から離れた地方のこともきめ細かな取材で読者に伝える。それが北海道新聞なのです。

一方で東京支社にも編集局が設けられています。100名ほどの記者がいて、社説を書く論説委員のほか、海外の情報を取

り扱う国際部や、政治経済部、社会部があります。政治経済部は首相や各政党の動きを取材したり、財務省、農林水産省などの省庁もカバーしています。例えば、農林水産省に記者を配置しているのは、日本の食料基地と呼ばれるほど農業や水産業と密接に関わってきた北海道の地域特性を踏まえた措置です。これは紙面構成の特殊性でもあります。

●他業種からみる新聞社の特性

新聞は他の商品とは違って値引きが出来ないのです。より良いものをいかに安く、たくさん売るのが商売の特徴のようにも思われますが、新聞は「特殊指定」と「再販（再販売価格維持行為）指定」という法律によって定価販売が義務付けられているのです。

新聞社には商品が一つしかありません。もちろん新聞以外にも、本を出版したりはしていますが、新聞の売上が圧倒的に多

いのです。他の業種では、売れなくなったら違うものを作って売ることが可能です。ですが、新聞が売れなくなったからといって別のものは作れません。景気、不景気に関わらず、新聞社の商品は新聞一つなのも特徴です。

その商品である新聞ですが、賞味期限はとても短いものなのです。その期限は半日。移り変わっていく情勢を捉える新聞は、とても鮮度が落ちやすいものだといえます。他の商品のように、在庫が余ってもまた売れるから取っておく、ということができないものなのです。販売所などでも、わずかな部数を残すのみで、多くを保管したりはしません。半日という賞味期限では、在庫を残す意味がないのです。

このような新聞を作るためには、多くの人が関わっています。取材記者だけではなく、彼等を支えている様々な分野の人々が新聞社にはいるのです。印刷工場で働く人、新聞のレイアウト

開は生き物だからTPOに合わせて変化するのがいいです。

●号外について

号外になるニュースの基準は、やはり社会的に関心を集めている大きな出来事というのが一番の基準です。他にもお客様に新聞が届いた頃に大きな事件があった場合、次の新聞まで待っていたことはできないので号外を出します。（特に海外との時差によって起きることが多いです）

また号外の印刷部数に関しては地域号外の場合や、関心度によって変化するため一概に言えません。駒大苫小牧のときは13万部以上印刷しました。号外を作るうえで一番苦労するのは時間に制約があることです。いつもの紙面制作時間に比べてはるかに短い時間で、事実のみを伝える号外を素早く作り上げます。

企業探究・北海道新聞社に迫る！

●事件の情報源は？

いろいろなところから情報は入ってきます。警察の担当記者や開発局・市役所・役場・消防署・警察署などがあります。その他にも交流のある町の人が教えてくださることがあります。決まったルートはありません。海外ニュースについては海外支局の記者が取材するほかに、通信社と年間契約して、ニュースを得ています。

●実際の労働環境について

新聞社というと、いつも取材に飛び回っていて休みがないように思われますが、実は普通の会社と変わりはないのです。内勤の記者はタイヤがちゃんと組まれていますし、販売局や広告局などは（残業はありませんが）定時で仕事が終わります。ただ外勤の記者だけは少し特殊で、決められた時間で帰るといふことはあまりありません。午前1時半の締め切りまで取材に行っ

たり、原稿を書いているのです。やはり休めないのではないかと、と思うかもしれませんが、しかし、忙しくても時間を見つけてちゃんと睡眠をとっている記者もいます。休暇もあります。記者なりにしっかりと自己管理をしているようです。

●道新ポケットブック

生活に役立つ、実用的なことを載せています。料理は毎日の生活に密着しているの、かなり取り上げる回数が多いです。読者の生活向上の手助けをしているこのポケットブックは、主婦の味方として、20年ほど前から発行し月1回、読者に届けています。

北海道新聞社には新聞社として、お客様に何も差し上げてはいけないという決まりがあります。その決まりの例外項目として定められた範囲内で発刊したのが、今の道新ポケットブックなのです。ですから読者の皆さんから「もっと読みたいのでべ

ージを増やしてほしい」という意見が多数寄せられますが、ページを厚くすると「定められた範囲内」に抵触してしまうので、現状通りとなっています。

●朝刊1面のコラム「卓上四季」に関して

執筆は社内の論説委員室という部署が担当しています。これは社長直属の部署で15人ほどの委員が本社と東京支局にいます。そのうちの一人が「卓上四季」担当です。基本的にはずっと一人で書いています。担当者は長年、編集に携わってきたベテラン記者です。卓上四季は色々な話を書いて、しかもわかりやすく書かなければならないので、相当の経験が必要です。

会社を代表して社説や「卓上四季」を書くことは、論説委員の誇りでもあります。

採用状況について

学生が社会人へと成長してい

くにあたり、とにかく新聞を読むということに慣れて欲しいと思います。そうすることで文章にも慣れることができ、就職活動でのエントリーシートや履歴書を書いたり、社会人になっても企画書を書くことなどに役に立ちます。また自分の意見を持つために新聞を読み、情報を受信するアンテナを磨く訓練をすることで、就職活動の際にも大変有利になり、広がりがあると思います。特に就職活動では経済面を重視して読んでおいて欲しいです。希望企業の業界全体における位置づけというものが理解できます。1日130円（朝刊即売価格）でここまで自分の利益になるものはないでしょう。

新聞に慣れるためには、最初は自分の興味ある場所だけ読んでみてください。スポーツ面でも何でも好きな面だけでもいいので、とにかく毎日読む習慣をつけて行ってください。慣れたら、どんどん読む場所を増やしていくといいです。何よりも新

聞を毎日読むということに習慣づけることが大切です。また各紙面の見出しを見るようにしてください。そこから社説を読むようになってほしいですね。そうすると新聞の読むべきポイントが理解できるでしょう。

●記者のスキルについて

記者には、正義感や真実に迫るねばり強さなどが求められます。これとは別に、私見ですが、記事を書くということが当たって、重要なことが5点あるように思えます。

- ① 間違いがないこと
(裏づけがあつて事実を書けること)
- ② 速く書けること
- ③ 量を書けること
- ④ うまい文章を書くこと
- ⑤ スcoopを書くこと

以上が「記事執筆の5条件」といってよいでしょう。ただしすべてを身に付けている人はこ

の世にいません。①はすべての記者がもたなければならぬ技術ですが、他に②③④の技術を一つでももっていれば、一人前ですね。

●今後の新聞業界について

ネットの繁栄⇨新聞社の衰退とは考えていません。なぜなら道新もネットでニュースを流しているからです。新聞社の力は新聞媒体そのものではなく、「ニュースそのものを捕まえる力」だと思っています。

ネットはニュースを見る手段にはなりますが、ネット自体は情報を伝える通信箱のようなものでニュースを集めることはできません。ネット上のニュースの多くは新聞社が提供しているのです。情報が氾濫するこの世の中で、情報を整理して、裏づけを取り、事実を見つめる取材力を鍛えることはネット社会と矛盾しないと思います。



〈担当〉 櫻庭、遠山、浦島、小畑、澤村、後藤、伊集院、赤松

ぶんぶんクラブ会員募集中

対象：北海道在住の18歳以上の方

会費：無料

申し込みはホームページ：<http://bunbun.hokkaido-np.co.jp/>

案内にそって必要事項を入力してください。入力完了後3~4週間程度で会員証を発送いたします。

特典：

- ① 料理教室や特別ツアーなど、会員向けイベントにご参加いただけます。
- ② 全道約1150件の加盟店で割引などのサービスが受けられます。
- ③ スポーツの試合や展覧会などの入場券プレゼントを随時行います。
- ④ 北海道新聞、道新スポーツに登場した話題の人や、道新が出版した本の筆者を招き、講演会や交流会を開きます。
- ⑤ 映画館のない地方などで巡回映画鑑賞会を開きます。「シネマの風景」(北海道新聞土曜夕刊に連載中)に登場した懐かしい映画も上映予定です。
- ⑥ 大学生の就職活動を強力にサポートします。10月18日(水)にオープンセミナーを開催しました。11月からは毎月1回、新聞を教材に特別セミナーを開きます

このほかにもまだまだ特典があります。詳しくはHPをご覧ください。



まらずに動いた。一つのことを考えたから更に二つのことを同時進行で考えた。情報を知ることでも大事。情報に欠くと間違った行動をおこす。多角的な視野を持つためには、先輩、後輩、社員と、あらゆるアンテナでより多くの人々に話を聞くことが必要。栄三氏を知る方々は、氏のことを「本当にその溢れるほどの行動力は有名で、滝川では『専務』といえば末廣屋電機機の専務、と分かるほどでした」とその存在感を話されます。栄三氏が専務を勤められたのは23年間。その間に末廣屋電機株式会社は、北は稚内から南は沖繩まで、全11営業所を展開していただきました。



専務時代の栄三氏

浪花節

栄三氏は、今までの経営を顧みて「コンピューター導入をもっと早くやれば良かった。でもコンピューターは全て割り切りで『浪花節』とは反対。だから導入に踏み込めなかった」と話しました。

「浪花節」とは栄三氏の心に根ざす行動理念のひとつ。氏は次のように語ります。

「浪花節は、言ってみれば義理人情の世界。現代の社会にはどうもこれが失われているように思える。今の人は良いものは良い、悪いものは悪い、と割り切ってしまう。しかし、私はダメでも、もう一回チャンスを与える『情』をもっと大切にしたいと思う。『成果主義』が悪いとは言わない。それがこの時代。現代の解決法や事業形態も十分理に叶ったもので正しいと思う。ただ、今一歩考え直してみてもどうか。少し情が薄すぎることはないだろうか。」

「親を大切にしない。先祖を大切にしない。友達を大切にしない。人に迷惑をかけてはいけない」そんな当たり前のことを言っている浪花節。しかし、

その当たり前のことさえも今の社会には欠けてきている、と栄三氏は危惧します。

「でも、『浪花節』義理人情はまだ完全に失われたわけではない。今でも、水戸黄門などは大人気な番組である。時代劇や侍映画を好んで観る日本人の根底に、確実に流れているはず。」

反発し、少しずつ離れていく「今の時代」と「浪花節」。ご自身の理念である浪花節を大切にしながらも、社会のニーズに応えようとする、栄三氏の挑戦はまだまだ続くのでしょうか。

「浪花節」は明治時代初期から始まった演芸の一つで、「浪曲」(うなづきょく)とも言いまします。庶民的な義理人情に訴える作品が多いことから、転じて「浪花節」にでもできそうなのという意味で、義理に流された話を「浪花節」と比喩するようになったそうです。

福祉

昭和の終わり頃、まだ知的障害者の子供たちの学校がなかった当時、栄三氏は雨竜の町長から養護学校設立の要請を受けました。要請を受けた時は「障害者の子供たちの面倒をみるのは家庭だ」と考えていた栄三氏でしたが、ある家庭との出会いが氏の考えを「学校をつくるべき」と方向を変えたそうです。

氏の行き着いた学校とは、「金曜の夜に帰宅、土日は家族と過ごす、そしてまた月曜日に元気な姿で登校するところ。」「施設というものは障害者を押し込める場所になってはいけない」というのが氏のモットーです。

養護学校まで子供たちに会いに行くのが最大の楽しみと話す栄三氏。取材当日も雨竜町暑寒の里の暑寒祭に出席された帰りであり、その様子を楽しくそうに語っておられました。「生徒たちが学校で他の子供たちと話し、触れ合う元気な姿を見ると本当に作ってよかったと思う。健康的な生活環境の中で、社会で生きる力を身に付けてほしい。」

滝川、北海道。生き残りをかけて

これから滝川をどう発展させていくか。滝川市商工会議所の会頭である栄三氏にとって、これは大きな課題です。特に駅前商店街と大型店のあるところでは大きな格差があり、過去にも何度

か商店街の活性化を試みてきました。現在は、中心街に人の住むところを増やして、お年寄りが町中に住めるようにしたり、特定のエリアに家やマンションを建てると補助金が出るようにしたりということを考えているそうです。

滝川市だけではなく、北海道自体も他県との格差に頭を抱えています。これについて栄三氏は「分業」の重要性を語っていました。「国、地方自治体は『地域がどう生きるか』を真剣に考えるべきだと思う。例えば、北海道を食料基地にしようと思うなら、大きく地区を分けてその地域の環境に合わせた生産を行うべき。企業レベルでは力が足りない。自治体と力を合わせて、地域全体・北海道全体を盛り上げていかな

なくてはならない。」

また、北海道が行う農業については次のように述べていました。「いくつかの農家が集まって大規模な生産を行えば、低コストで良質な商品を作ることができよう。またスーパーなどと提携することで、安定した収入も得られるのではないかとと思う。しかし、ただ提携先の指示通りの生産ではなく、地域の農家の伝統を生かした生産を行うことが大事なことだ。」

地域の格差を埋めるのは簡単ではありません。まずは国、そして地方自治体はその地域の方向性をきちんと決めることが重要なのです。

北海道議会議員

大河昭彦さんに伺いました



30年前、私が衆議院議員だった渡辺省一代議士の秘書をしていた時、渡辺代議士の後援会の会長をしていたのが猪股さんでした。それから30年間、仕事でもプライベートでも長い付き合いをさせて頂いています。

猪股さんが福祉に目を向けたのは、知的障害者の子供がいる家を訪問したのがきっかけだそうです。親が子供を隠してしまう光景を猪股さんが見て心を痛め、その際に在宅でカバーできない所はたくさんあるはずだ、施設を作って少しでも負担を軽減させてあげよう、と考えたそうです。それが福祉に関わる一歩でした。それにしても猪股さんは本当に忙しい方なんです。寝る時間もないくらい忙しい日もあるそうで、移動の時間に車の中で寝ることも多々あるそうです。寝起きで朝一から出かけるという日はステテコにシャツ姿で車に乗ることも。そのくらい仕事に対して真剣に取り組んでいるんですね。それでも常に相手の立場になって物事を考えることのできる猪股さんは素晴らしいと思います。

滝川市議会 議長

山腰修司さんに伺いました



猪股さんとは、もう40年来的付き合いになるのですが、仕事だけではなくプライベートでもお世話になっています。猪股さんは滝川商工会議所会頭ということで、駅前の活性化や合併問題など、滝川市のこれからをいつも考えておられます。合併問題については、7ヶ月にわたる長い話し合いをまとめて下さいました。また企業人としても大変素晴らしく、知恵と行動力のある人です。何か疑問があれば自分で調べて確かめるのです。人と話すのがとても好きで朝の2~3時まで話すことも少なくありません。私にとって、猪股さんは兄のようでとても得がたい先輩です。けんかもよくしますが、「お互い言いたいことを言い合えなければ真の友ではない」私たちはそう思っています。これからもお互い頑張っていきたいです。



高齡化社会を迎える日本。これから
の日本について栄三氏は次のように語
りました。

三分の一が若い人、三分の一が中年
の人、三分の一がお年寄り。これはバ
ランスがとれた理想の社会だと思う。
若い人には新しい発想や技術がある。
若いからこそできる貴重なものだ。中
年の人には今まで培った経験がある。
今までの努力が産んだとても尊いもの。
二つの世代はそれぞれ違ったものを持
っている。

私たち年配の者には今までやってき
た経験や知恵を、次の世代に伝える仕
事が残っていると思う。この仕事は社
会全体を安定させるために重要なこと
である。何よりボケ防止になるから、
私たち自身のためにもなると思う。こ
のようにして三世代が自分の役割に勤

「青春とは心の若さである」
松下電器産業を一代で築き上げた経
営者、松下幸之助氏の言葉であり、栄
三氏のもとても好きな言葉でもあります。
松下氏は生前、末廣屋電機初代の徳次
氏を非常にかわいがられたそうです。
徳次氏もまた松下氏を慕い、日本の発
展のために互いに力を合わせてきたそ
うです。

松下氏の言葉から受けた印象を、栄
三氏は次のように語ります。

「いつまでも若さを持って生きること
が重要だ、という意味を持つこの言葉。
私自身が考える『若さ』とは、活力や体

力も勿論だが何より、目標を持ち努力
することであると思う。目標無くして
人は努力することはできない」。

栄三氏は、「目標を持つことについ
て」「人生を80歳までとして、大まかな
人生設計を立てることが有効。もちろ
ん実現できないこともあるだろう。そ
れでも考えることが重要」と言い、ご
自身の人生を例に挙げられました。

「まず、学生時代から25歳くらいまで
はどんなにわんぱくでも良い。そして、
25歳を過ぎたら40歳までは必死で仕事
をする。40歳を過ぎたら社会貢献。70
歳を過ぎたら自分の仕事をきっちり終
わらせることを考える。これが私の考
えた人生設計だった。実際、学生時代

は本当にワルだった。それから40歳ま
では本当に寝ないで仕事をした。40歳
を過ぎ、社会貢献もすることができた」。

今までの人生をほぼ満点と語る栄三
氏。しかし、まだご自身には残された
仕事があると言います。

「私はまだ、自分の仕事をきっちり
終わらせることができていない。今は
まさにその時期。ただ、仕事を終わら
せるだけでは無責任。請けた仕事は任
期満了までしっかりと務め、全てきつ
ちり受け継がせる。何よりも後継者を
育て、世代交代をすることが今の私の
課題」。

〈担当〉門田 西村、鈴木 里、
鈴木 里、笠原、数野、舟山

日本の未来は暗くない

若い人には力がある。せっかく持つ
ている力を使わないのはもったいない。
夢や目標を持って、それに向かって努
力して欲しい。そういう機会をもっと
たくさん与えていくべき。

そして60歳を過ぎたらバトンタッチ。
年配の人は社会のために、若い人や中
年の人を見守ってあげればよい。私も74
歳になったが、これからどんどん次の
世代にバトンタッチしていくつもりで
ある。このようにそれぞれがそれぞれ
の力を生かしていけば、高齡化社会と
いわれる日本の未来も決して暗いもの
ではないはずだ。

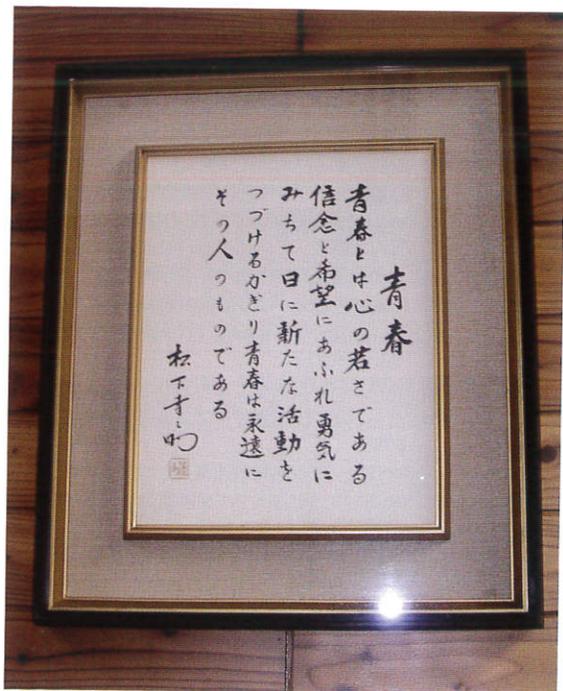
若さとは何か

「青春とは心の若さである」

松下電器産業を一代で築き上げた経
営者、松下幸之助氏の言葉であり、栄
三氏のもとても好きな言葉でもあります。
松下氏は生前、末廣屋電機初代の徳次
氏を非常にかわいがられたそうです。
徳次氏もまた松下氏を慕い、日本の発
展のために互いに力を合わせてきたそ
うです。

松下氏の言葉から受けた印象を、栄
三氏は次のように語ります。

「いつまでも若さを持って生きること
が重要だ、という意味を持つこの言葉。
私自身が考える『若さ』とは、活力や体

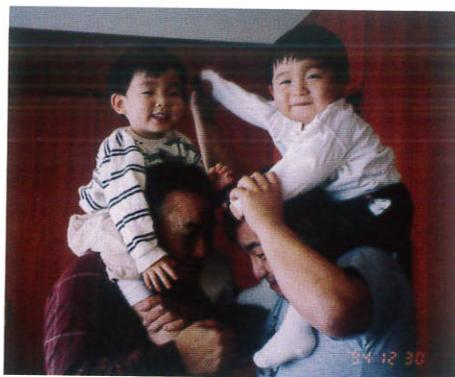


松下幸之助氏の「青春」
栄三氏のご自宅のリビングに飾られていました。

社長の休日。 栄三氏、もう一つの顔

末廣屋電機代表取締役、商工会議所
会頭、いくつもの仕事をこなし本当に
多忙な栄三氏ですが、家ではまさにマ
イホームグランパ。お孫さんと過ごし
ているときに至福の時間だと聞きまし
た。

また、栄三氏のご自宅のそここには
は柔らかな光を放つ素敵な人形が。
これはリヤドロというスペインの陶
器の人形で恵子夫人へのお土産として
買い求めたのが最初だったそうです。
それから20年以上集め続けて、今では
90体ほどに。「他の陶器とは違う優しい
光り方が気に入った」と話す栄三氏。
特に「家族」や「子供」を象徴した人
形が好きだそうです。



お孫さんと遊ぶ栄三氏



書斎の戸棚に並ぶガラス細工。その数数千体。



ご自宅に飾られているリヤドロ

ホテルスエヒロ副社長 猪股恵子夫人に伺いました

夫、栄三とは結婚して49
年になりますが、本当に商
売熱心で、経営者としては
妻の私から見てても非常に優
秀な人です。ただ、子供が
幼かった頃は本当に仕事一
筋で、家族の父親としては
落第点だったかもしれませ
んね。

仕事が好きで熱心なところ、周りの人によく気が回るところ
は本当に義父さん（徳次氏）ゆずりです。でも、夫と義父さんの
違うところは、孫と過ごすのが大好きなところですね。義父さん
は家庭でも厳格で、大黒柱として構えているタイプだったから。

夫がこれほどまでに色々な事をして元気でいられるのは、よく
眠るからだだと思います。移動中の車でも、どこでも、本当に時
間があれば眠れるんです。これからも本当に元気で長生きして欲
しい、と願っています。夫としてはもちろんですが「会社の社長
として」という気持ちも強いです。私にとっても栄三は社長です
から。もうすぐ75歳なのでもう少しゆとりのある生活をして
良いと思うのですが、仕事が最大の趣味な人ですから。何よりも
幸福に過ごしてもらいたいです。

「水引き」を作って義父さんを支えた義母さんのように、これ
からも妻として、仕事のパートナーとして夫を支えて生きたいと
思います。



「好き」からはじまった10年 私たちの街の動物園を守ろう！ 旭山動物園くらぶ



日本最北、年間入園者数日本一。道内外を問わず今やすっかり有名になった旭山動物園。しかしこの動物園を応援し続ける市民団体があることをみなさんをご存知でしょうか。97年に活動を開始し、05年NPO(特定非営利活動法人)設立認証され登記した「旭山動物園くらぶ」です。今回はそんな旭山動物園の人気を支えてきた旭山動物園くらぶ理事長多田さん、副理事長佐々木さんにお話を伺いました。

「好き」を継続していくことの大変さ

—くらぶ発足のきっかけは？
動物園の経営が振るわない頃に、「こんなにすばらしい動物園があるのに、市民が利用しないのはもったいない」「この動物園の楽しさ素晴らしさをみんなに伝えよう」と市民に呼びかけ、旭山動物園開園30周年の年に自分たちの街の動物園を応援する団体を設立したのがはじまりです。発足当時、会員のきまりの中には「日に一度、旭山動物園のよさを誰かに伝えよう」というものがありました。

—「好き」の10年間で一番苦労なざったことは？
ずっと苦労しています(笑)でも、やはり継続することが一番大変なのではないでしょうか。テンションを上げすぎても投げやりでもダメですからね。みんなの「好き」が集まっただけじゃなかった市民団体ですが、NPO法人になって改めて「好き」を継続していくことの大変さを日々実感しています。

—くらぶを始めて良かったと思われたことは？
色々大変なこと、やらなければならなかったことがありますが、最後に「やってよかった」と常々思います。最近一番やってよかったなと思ったイベントは、05年8月11日に行われた、ホッキョクグマに雪をプレゼントしようという企画です。これは美唄の自然エネルギー研究会という市民団体の企画で、私たちが40tの雪

を砕く作業をお手伝いしたんです。ほっきょくぐま館の施設の中に入るなんてこういうことに関わってない体験できないですし、何よりも真夏に雪を見たホッキョクグマがすごく喜んでる姿を見て胸が熱くなりました。このような場面を経験すると、「じゃあ次！」という気持ちになってしまいます。また道内外の色々な団体の方と情報交換や交流できるようになったのもうれいしですね。お互い「自分たちの動物園を応援しよう」という同じ志を持っているということ距離がすごく縮まります。

—主な活動内容は？

今までは一ファンクラブでしかなかったので、クイズ大会やおえかき会、コンサート、動物園バスツアー、クリスマスパーティーなどのイベントもすべて手弁当で活動してきました。冬の開園期間中は

休業していた売店に代わって豚汁やココア、甘酒など暖かい飲み物を販売したりもしていました。05年にNPO法人となって活動の幅が広がり、定例になったバスツアーや開園イベントに加え、動物の勉強会、園内のくらぶショップの運営、冬には旭川市の冬祭り会場での雪像作りにも参加しています。また、旭川市の観光情報センターもお手伝いしています。最近では、旭川出身でジブリ美術館内のオブジェを作っていらっしやる方から「旭川の街が元気になるために使って欲しい」と、旭山動物園の人気者ホッキョクグマのイワンくんの特徴である足の裏まで忠実に作ってあって、頂いた時は本当に感動しました！これから「旭川市旭山動物園」のPRに使っていきたくと思っています。

旭山動物園くらぶの活動経歴

1996年12月	仮称「旭山動物園倶楽部」として発足準備委員会開催
1997年4月	正式名称「旭山動物園くらぶ」として発足一観察会、懇談会など行う
1998年9月	秋のバスツアー開始(以来定例に)
12月	クリスマスパーティ開催
1999年7月	さる山オープンに因み勉強会開催
8月	夜の動物園期間中「夜200屋台」を実施、大盛況
2000年2月	冬の動物園期間中園内で豚汁販売
6月	べんぎん館オープンに因み勉強会開催
2001年9月	旭川市民秋祭りに参加(パネル展、ふれあいコーナー)
2002年4月	ホームページをリニューアル
6月	ほっきょくぐま館オープンに因み勉強会開催
2003年7月	オラウータン勉強会開催
2004年	地元コミュニティFM番組内にくらぶを紹介するコーナー誕生
2005年4月	NPO法人(特定非営利活動法人)設立認証され登記 園内に「くらぶショップ」を開設
2006年2月	旭川冬祭り会場にて雪像コンクールに参加
4月	夏期開園に備え、動物園周辺のゴミ拾い
8月	ほっきょくぐま館に雪プレゼントの作業手伝い

大人も子供も楽しめる 身近な教育の場 動物園

—会員はどのような方たちですか？
年齢・地域に関係なく、現在全国に約230人の会員がいます。今は道内と道外の会員数が逆転してしまいました。旭川市民に呼びかけて設立した団体なので、少し複雑なんですけどね。それだけ全国のみなさんが旭山動物園を応援してくれているということだとうれしく思います。

—くらぶが考える動物園の姿とは？
やはり街や市民に根付いた動物園でしょうか。動物園は美術館や博物館と同じように教育の場なのに、日本には国立のものはありません。私たちのイベントの中でも勉強会がありますが、大人になって勉強することってたくさんあるんですよね。勉強といっても決して固く考えることはないんです。実際に動物たちを身近で見ているのを嗅いで触れて、年齢に関係なく大人も子供も楽しく学べる身近な場所、動物園はそういう場であってほしいです。「かわいい」から入って、「す

ごい」になって、最終的には命の尊さを考えるところに行き着けばいいですね。それには私たち市民レベルから動物園に対する意識を変えていく必要があると思います。これは旭山に限らずどこも同じなのですが、利用する側が支えていかないと行政の理解が低いところで終わってしまいます。ですからそういう意識を発信し広げていくのが私たちの役目だと思っています。

—ますます入園者数が増加する旭山動物園ですが、(06年9月後半に200万人の入園者数を突破した)

今の時代に一つの動物施設にこれだけ大人が集まるというのは、マスコミ効果もあるかもしれませんがいかに癒しを求めている大人が多いかを示しているような気がします。時代がバサバサ乾いているのではないのでしょうか。遠くから来園されたみなさんが、まるで子供のように目を輝かせ「楽しかった!」と帰って行かれるのを見ると、これできっと動物園を見直してくれたんじゃないかな、と思います。そして今一度地元に戻ったらき

っと身近な動物園の見方が変わるはずですよ。旭山動物園でホッキョクグマが水にドボンと飛び込むのを見た時に何がすごかったのか、大きさであるとか水中に抜けた毛がキラキラしてたとか、そういう感動を胸に抱いて帰られると思うんです。旭山のホッキョクグマたちは他の動物園のそれらに比べて白というよりは茶色なのに気づきましたか？あれは寒い旭川の冬を乗り切るために体から油を出しているためなんです。最初はそういうことを比べるところから始まっていいと思います。それからそれぞれの動物園が持っている素晴らしさを知っていてもいいですね。最終的には動物園ファンが増えるのではないのでしょうか。何千何万人という数字が旭山動物園の来園者数だけではなく、全国の動物園ファンの数字になって欲しいですね。

—今後旭山動物園に期待する事は？

旭山動物園には現在ゾウがいません。ゾウ・ライオン・キリンが動物園の三種の神器と言われています。ゾウがいなかったら動物園じゃないというわけではな

いですが、やはり少し寂しいですよ。市で経営している動物園なので、市民が要請して種類を増やす事が可能であれば私たちが頑張って行きたいと思っています。それは動物園にも期待することなのですが、自分たちでアクションを起こすことも大切だと思います。私たち市民の小さな力でも集まれば何か役に立てることがあるかもしれないですね。あと願わくは、もう少し落ち着いて見学できる状況になってくれるといいですね(笑)そうすれば来園者は旭山動物園からもっと心に響くものももらって帰ると思うんです。深呼吸しながらもう一度ゆっくり園内を見て回ったら、何か新しい発見ができると思いますよ。

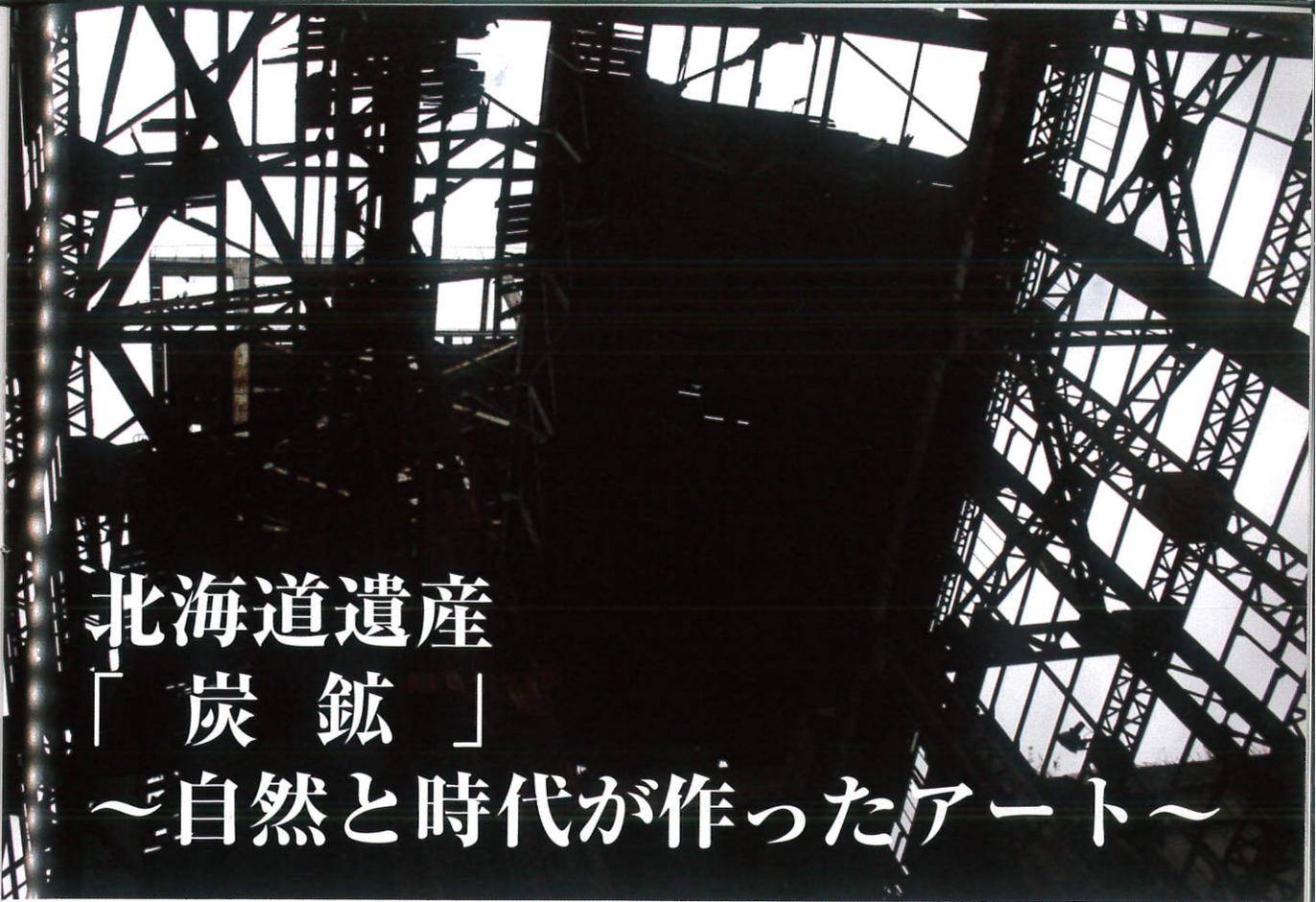


〈お知らせ〉 あなたも旭山動物園くらぶサポート会員になりませんか？

- どなたでも入会できます
- 会員になると…
- ・ホッキョクグマのイワンくんの足跡モチーフのかわいい会員証をお届け
- ・旭山動物園発行の動物情報誌「モユクカムイ」を発送
- ・「くらぶ通信」を年4回発行
- 全国の動物園好きのネットワークが広がります(入会金 2,000円(初年度のみ) 年会費 3,000円)

入会のお問い合わせは
〒078-8251 北海道旭川市東旭川北一条6丁目10-23
特定非営利活動法人旭山動物園くらぶ 事務局
TEL 0166-36-7167 (FAX 0166-36-7168)
旭川動物園くらぶホームページ <http://www.zooclub.jp>

〈担当〉澤村 美菜、笠原 智代、鈴木 里実、平本 光、後藤 文昭



北海道遺産 「炭 鉱」 ～自然と時代が作ったアート～

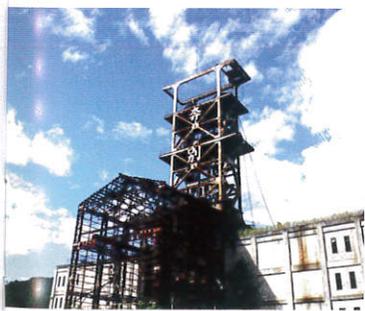
廃れていくものの、美しさ。

空知地方の歴史を語るうえで「石炭産業」と「稲作農業」を欠くことはできない。かつて、空知地方の石炭産業は国内最大と言われ、最盛期には100炭鉱、約80万人の人口を擁していたが、近年、石油などの普及により家庭での石炭の需要は減り、現在では釧路コールマイン以外すべて閉山している。

しかし、今日では、炭鉱のシンボルとも言われている立坑櫓や、それらの施設をアートとして楽しむ芸術家が増えている。さらに平成13年には、炭鉱遺産が北海道遺産に選定され、道外から足を運ぶ観光客の方々も多い。

私たちが始めに向かったのは、かつて「東洋一の立坑」と呼ばれた「奔別炭鉱」の立坑櫓である。高さ51・52m、立坑内径6・4m、深さ740m、現存する立坑では日本一の規模を誇る。1971年の閉山後、密閉作業中に爆発事故が起こり、さらに台風の影響で現在の骨組みだけの姿となった。案内をして下さったのは、元・炭鉱マンである磯野保さん(82)。立坑櫓のすぐ側まで近寄って見上げると、赤錆びた鉄の骨組みが空を切り裂いているよう

に見える。活気があった全盛期には、ここでたくさんの男達が採炭・選炭した。その力強さを、この奔別の立坑櫓から垣間見ることが出来る。骨組みだけと成り果て、荒廃した姿には、現代の日本を象徴しているようにも思えてならなかった。「ヤマ」が生きていた時代に生きた人たちのパワーや活気は、今はもう失われてしまった。



奔別を後にし、次に向かったのは、道内で最も古い北炭幌内炭鉱跡地である。ここでは、「みかさ・炭鉱の記憶再生塾」事務局長・伊佐治知子さんが合流してくださいました。今も残る炭鉱住宅を通り過ぎ、山道を行くと、緑の中に点在するコンクリートの建造物。それはまるで、どこかの遺跡に迷い込んでしまったような不思議な空間だった。選炭所であったこの場所には、荒廃した当時の建物がひっそりと存在している。荒廃、と表現するのは失礼なほど、ここには神聖な空気のようなものが漂っていた。その先には、「幌内変電所」、「幌内神社」などが残されていた。先日解体が始まった「夕張市北炭清水沢発電所」からの電力は、この変電所に送られ、炭鉱施設へ供給された。変電所は老朽化が激しく、先日屋根の補修工事が行われたばかりである。ここでは『幌内歩こう会』主催のイベントやワークショップが行われ、室内には配電盤や当時使われていた道具が保存してある。なかでも配電盤は、今にも動き出しそうなくらいの存在感があり、室内は映画のロケ・セットのようだ。神社の境内は、祭行事などで炭鉱関係者や家族が集まり、当時の人たちの憩いの場所だった。



炭 鉱 から、歴史・原点が見える

先に記述したとおり、現在日本での採炭は釧路コールマイン以外行われていない。だがしかし、日本国内で消費される石炭の量は、去年で約1億7千万トン、毎年約1千万トンずつ増えているのだという。それらの石炭はほとんどが輸入で、現代の日本の産業を支えているといっても過言ではない。石油の減少や原子力問題に伴い、将来、石炭がエネルギーとして使用される日がまた訪れるのではないだろうか。

現在、選炭所や神社のあった付近は、伊佐治さんをはじめとするボランティアの方々の手によって公園が造られ、建物の管理なども行われている。伊佐治さんたちは「自分たちで守り、変化する公園」を目指し、草を刈ったり、廃材を利用して何かを作るなどの活動を続けている。そういった「まちづくり」について伊佐治さんは、「未来に向かってのまちづくりができるのは、田舎なんです。一人ひとりの行動や意識が大切。地元が頑張らないと、まちづ

くりはできない。何の肩書きもない庶民が、まちづくりに携われるのは、今の時代ならではのことですね」と、語る。

マスコミが取りあげ、多数の芸術家や学生が興味を持って訪れるのも、炭鉱遺産に何らかの魅力を感じているからだ。炭鉱遺産は空知唯一のシンボルなのではないだろうか。

伊佐治さんは、最後にこう語っていた。「炭鉱は、国策として行われ、国策で閉山された場所。それを見ることは、「現代」を見ることも繋がっていく。つまり、炭鉱を見ることで歴史・原点が見えてくる。」

石炭は、もう過去のものではない。これら炭鉱遺産は、その全体像が見えてこそ、私達にさまざまな歴史を教えてくれる道標なのかもしれない。



中空知 温泉巡り4

きたのみやこ あしべつ
北の京芦別

中空知にある温泉の旅、第4弾。今回は「北の京芦別」を紹介。高さ88mの北海道大観音は遠くからでもよくわかる北の京芦別の目印。ホテル「五重塔」「三十三間堂」や鯉が泳ぐ日本庭園など、まさに北の都。大浴場は日本風とギリシャ風の2つの浴槽があり、それぞれが持つダイナミックな雰囲気に着きこまれてしまうだろう。



「北の京芦別」
住所： 芦別市旭町2
アクセス： [電車] JR根室本線芦別駅からタクシーで10分
[車] 滝川から約40分、旭川から約1時間、札幌から約1時間40分、苫小牧から約2時間40分、函館から約6時間30分
営業時間： 9:00 ~ 21:00
休業日： 年中無休
料金： 中学生以上1,000円 小人500円

— 名前の由来は昭和45年オープン当時は「芦別レジャーランド」という名前でしたが、昭和63年に改装される際東大寺の十二支苑神宮寺の館長にアドバイスをいただいて京都、奈良をイメージして建てられた為、名前もそれに伴って変更されました。

— どのようなお客様が多いですか
お客様としては御年配の方が多く、また外国からの観光客が訪れたり、冬の季節はスキー場が近いので本州の学生さんが

— 来場者数の平均は
日帰り客が1000人、宿泊客が1000人、多い時は300人以上訪れることもあります。

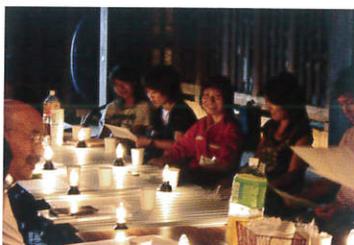
— 北の京芦別の4大スポット
「歌謡ショー」「ゆつくりできるホテル」「大浴場」「北海道大観音」は北の京芦別の4大スポットです。「歌謡ショー」は昭

和45年7月から毎日行われていて、それを目当てにくるお客様も多いです。さらに「北海道大観音」は建設当時日本一の高さでした。昭和53年1月に建てられたホテル「五重塔」などを合わせ、外装だけをみにくるお客様もいらつしやいます。大浴場は「ギリシャ神殿大浴場」「日本庭園大浴場」に男女日替わりで入ることができ、それぞれに露天風呂がついています。露天風呂は天然の温泉です。

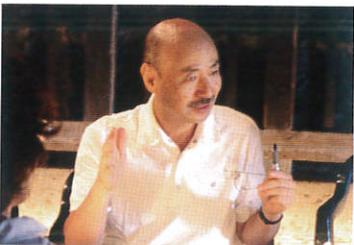
— 銘石2000トンを使用した日本庭園大浴場はとても迫力があり、水車や滝などの演出がすみずみまで行届いています。ギリシャ神殿大浴場は、扉を開いた瞬間に立ち並ぶ大理石の彫刻が目飛び込んできます。その大胆で豪華な内装には誰もが驚くことでしょう。日常から離れ、ゴージャスでファンタジックな時間を殿気分、姫気分味わってみてはいかがでしょうか。

アートチャレンジ滝川

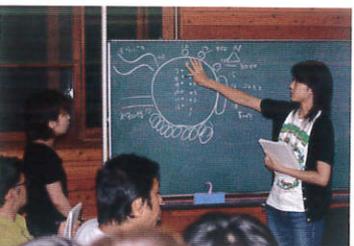
- ① 滝川の新しい魅力をつくることで、外から「人が集まる滝川」にしたい。
- ② 素晴らしい「人」と「芸術に触れる」機会を数多く提供したい。
- ③ 滝川の歴史遺産と自然環境を利用した新しい「町づくり」を推進したい。
- ④ 美しい景観の滝川をつくりたい。



一日目、オリエンテーションの様子



五十嵐威暢氏



中間発表の様子

五十嵐威暢プロフィール
1944年 滝川に生まれる
1957年 滝川市立第三小学校卒業後、東京へ転出
1968年 多摩美術大学デザイン科卒業
1969年 カリフォルニア大学ロサンゼルス校大学院修士課程修了
1970年 (株)イガラシスタジオを設立し、デザイナーとして活動を開始
1975-76年 カリフォルニア大学ロサンゼルス校デザイン科講師
1979-83年 千葉大学工学部講師
1985年 米国永住権取得、Igarashi Inc. (Los Angeles) 設立
1994-04年 本拠をロサンゼルスへ移し、彫刻家に転身
2005年 米国から帰国し、日本でアーティストとして活動を開始

Spine (愛称: ニョキニョキ) を見学。その他にも市内見学をしながら、学生それぞれがインスピレーションを高めていきました。そのあと丸加高原で現地調査、及び発表の準備を二日目まで行いました。学生たちを見ると、睡眠不足の中、

一生懸命頑張っていた様子が伺えました。三日目の発表では、RAPに参加する前から温めていた企画が、初日の発表より格段に良くなっているのが分かりました。

解散後、学生に話を聞くと「とにかく

これらを目的としたNPO法人アートチャレンジ滝川(A.C.T)は、札幌駅南口「星の大神計」の制作で有名な五十嵐威暢氏の下、滝川市で様々な活動を行っています。今回A.C.Tが8月22日、24日に「太郎吉蔵」で主催した「Round Art Program 2006」(RAP)を取材させていただきます。これは全国からランドスケープ(自然と人間の調和に関する芸術)、アート、デザイン、建築を学んでいる学生たちが、滝川の丸加高原を訪れ、この森の生かし方や、周囲のエリアとの関係をとらえた利用や施設のあり方を提案・発表するというものです。

今回は20名を超える学生が全国から集まり、9名の講師陣の指導を受けながら、最終日の発表に向けて真剣な眼差しでRAPに参加していました。

一日目は自己紹介から始まり、市内の一の坂西公園にある五十嵐氏の「Dragon



Dragon Spine



最終日の発表の様子

楽しかった。自分の興味である建築を追求することは時間を忘れさせてくれる。建築以外の分野の意見を聞くと、新しい意見に感化され、自然に自分の意見が固まってくる。」このような意見を聞くと、RAPが本当に学生たちの糧になったことを感じます。主催者の五十嵐氏が「人々との交流が若い人たちにとって大切なことだと思います。この経験が将来に結びつくのです。」とおっしゃった言葉と学生の感想を比べると、このRAPの成果が分かります。

「人づくりも芸術のうち」これも五十嵐氏がおっしゃった言葉です。たしかにA.C.Tは将来の有望な人材を育成しています。滝川市民として、このA.C.Tの活動は見守っていくべきではないでしょうか。将来、滝川を元気にしてくれる学生が育つことを願って...



先輩に学べ！OB・OGインタビュー

國學院短期大学OB・OGは現在約6千余名。それぞれ色々な土地で自分の道を進んでいらっしゃいます。渋谷の國學院大學への編入の制度ができ、ますます将来の道が広がりました。今回はその編入を経て、北海道内で活躍されている4人の方と、渋谷の編入生の方にお話を伺ってきました。



山本司さん
（国文学科所属、平成5年卒業。07年1月から青年海外協力隊としてタイへ派遣される予定）

なぜ短大を選ばれたのですか？
高校では放送部に所属していたのですが、力を入れるあまり勉強を怠ってしまい、理系から文系へと進路変更しました。推薦の基準を満たしていたので、文系Ⅱ文学という単純な考え方で、その年から共学になり男子も入学できるということ短大を選びました。

男子一学期生ということですが、短大の思い出を教えてください。
入学した時、男子学生は全学科あわせて34人くらいでした。元々理系で文学について全くわからなかったのですが、短大にきてから「勉強しなきゃ」という意識を常に持つようになりましたね。放送部のサークルには入りませんでした。放送部はたまたま2年生の時、学生が学生生活を紹介するビデオを作る企画があり、それに参加しました。ドラマ仕立ての凝った事をやろうと思って頑張りました。

印象に残っている授業などありますか？
文学の授業ですね。やはり元理系の私には新鮮でした。「ヘーッ」っていうものばかりで聞いて面白かったです。当時は古典文法の「ぶ」の字もわからないような学生だったのでその分たくさん勉強しましたね。卒業論文は出身の利尻島方言について書きました。高校の放送部

—渋谷に編入してからは大変でしたか？
私はストレートに編入してないのでやはり勉強が大変でした。それに加えて教職も取ったので、ちょっと無茶をして体を壊してしまいました。編入してからも短大の卒業論文に引き続き、方言とか言語を研究したかったので、国語学を専攻しました。放送部やアナウンスの専門学校の経験もあり、言葉とか伝えるとか、そういうところに主軸があったのかも、それと。國學院大學卒業2年後に非常勤講師になりましたが、最初赴任した学校では国語の先生方みんな國學院出身の方で驚きました（笑）

—教職に就いて感じたことは？
私は高校教師は6年間、塾講師を入

—タイでは主にどんな活動をされるのですか？
私が派遣される場所は労働省が管轄する技術開発センターで、そこでは青少年に向けて技術学校に行こうというPRの為にビデオやWebなど視聴覚教育という分野で、視聴覚教材を作り、またその作り方を教えるという活動をする予定です。今は不安半分、楽しみ半分といった感じですが。しかし、勉強したいと教職をやめて行くからには2年間一生懸命頑張ってくださいと思います。

—最後に現役生へメッセージをお願いします。
そうですね。そんなに無理して気負わなくていいんじゃないかな。学校の勉強も友人との会話も遊びもすべてが自分の経験となっていくと思います。私の場合も色々大変なことはありましたが、そのすべてが今の私の血となり肉となつていてと思うんです。ですから勉強だけやればばい、という考えは持たずに、何事も経験なんだ「学び」なんだと思つて前向きに生きてください。全力で勉強して全力で遊んで、何事も全力で取り組んでいってほしいです。無気力学生にならないように！

—母校だった札幌日本大学高校での教師時代に、札幌市内の放送部の高校生たちで05年に「北方領土返還」のビデオを制作したんです。生徒たちが実際に現地に出身、地元の方たちと交流してきたものを各学校が分担して視聴覚教材を作るという企画で、私も顧問として指導をしました。構想から完成まで1年半の制作となりましたが、生徒にとってはとても貴重な体験になったと思います。生徒たちでやっているのがうらやましいくらいでした（笑）それが私の刺激にもなり、もっと勉強したくなったんです。知識や経験を広げ、何か新しい可能性を見出せばと思つたのが応募のきっかけです。



梅津麻紀さん
（国文学科所属、平成11年卒業、現札幌創成高校教師）

—網走の高校からなぜ滝川の短大を選ばれたのですか？

小さい頃からずっと書く事に憧れていて小説家になつたかったので、短大の文芸創作のコースを選びました。

—短大の生活で心に残っているものは？
一人暮らしでしたがアパートの周りの友達で沢山いてほとんど友達と過ごしていたので寂しいという気持ちはありませんでした。その当時は関東よりも北海道の子が多かったです。授業では川辺先生の文芸創作を取っていたのですが、小説をみんなで厳しく批評し合いながら学べました。それまで小説を書いている事を周りに言えなかったのが、短大へ来てからだか生きる場所を見つけたような感じがしました（笑）卒業創作で自分が生きてきた20年間の思いを全部つぎ込んで小説を書き、滝川文芸に載せていただいたことも本当にいい思い出です。

—編入されてから大変だったことは？
日本文学科に編入したのですが、その当時編入組は13人ほどしかいなかったんです。学食も講義もほとんど一緒に固まっていた感じがしましたが、その分強い絆が生れました。編入してからはついていくのがやっとでしたが、私と同じように3年生から教職を取った仲間が多かったのも、みんなで教えあつたり話し合つたりして勉強していました。

—教職について学生生活を振り返ると…
今の子は勉強を嫌っているような気がしますが、学べるのがたくさんあるのにもつたないと思います。ですから私は教師

—現役生に一言お願いします。
仲間と論を重ね、勉強を通じて得られる友達を大切にしたいです。私もそうでしたが、昔の仲間との絆は今でも強いです。教師になつてからも、仲間短大でのそれぞれの専門分野の教え方などの助言をもらう事があります。短大時代は自分の好きなことを学んで遊んで、1日が24時間じゃ足りなかったような気がしますが、ですから今の学生も時間が足りないって思うくらい色んな事に挑戦して、振り返った時に「よかったな」と思えるように過ごしてください。

—教師という職業で大切な事は？
私もまだまだ未熟なのですが、そうですね、実は私は教育実習で失敗したんです。謙虚さが足らず、自分が出来ないという事をすべて生徒のせいにしてしましました。教科書を出さないのも授業に参加しないのも生徒が悪いと思つていました。しかし指導教官に「生徒のせいにするんじゃない」「そうしているのはあなただ」と指摘を受けました。今でもこれは教訓として頭にいつも入れていますが、本気で教師になろうと思つたきっかけになりました。

—網走の高校からなぜ滝川の短大を選ばれたのですか？
小さい頃からずっと書く事に憧れていて小説家になつたかったので、短大の文芸創作のコースを選びました。



●鈴木雅淑先生
(国文学科所属、平成11年卒業。現旭川実業高校国語教諭)

—まず短大時代について伺います。サークルに入っていましたか？
パドミントンと吹奏楽部に所属していました。パドミントンにもなりました。吹奏楽の方はほとんど活動していません。楽器確保もできないから廃校になった学校から借りてきて、たまに演奏するだけのような感じでした。だからイベントなどでも演奏する機会がなかったです。

—思い出に残っている先生や講義は？

国文学科の播摩先生ですね。今でも不安な気持ちになった時にアドバイスやだめだしをもらいに行きます。あと、先生のよく言われる「だからどうなの」は自分もよく使いますよ。今の生徒はすぐに答えを欲しがりますが、そこで「だから」と問いかけると考えてくれます。

—短大時代のことで今後に立っていることはありますか？

アイヌ語の教材が教科書に出てきた時に、魚井先生のアイヌ語の講義をとっていたので、先生がまとめ上げたアイヌ語の辞書を送ってもらってそれを生徒に見せたことがあります。このことは、短大の2年間が無ければできないことだなと思います。あと、昔播摩先生からいただいた古文のプリントや教師になってから研究室に行った時にいただいたプリントを生徒に還元することによって、文法

書だけじゃない古典の知識を与えられることもそうですよね。

—なぜ編入しようと思われたのですか？

きっかけは播摩先生なんです。実は、私は編入希望だったわけではなくて、中学の教員免許を取って、道内で就職するつもりだったんです。にもかかわらず、自分としては、とれるものを全てを取りたいと思っていたので、教職と併せて編入の授業も取ったんです。そして、その時間割を見た播摩先生が「國學院に編入すれば中高両方の免許が取れる。だから、編入したいなら教職科目はいらない。もし中学の教員免許を取りたいだけなら、編入科目はいらない。」と言われ、本学で高校の免許も取れば、自分の夢の幅が広がると思いい編入を決めました。

—編入してからの不安や大変だったことは？

短大から編入した人だけで集まる「滝川会」というのがあり、そこに先輩や先生方がいるから不安は無かったです。勉強も編入のラインが厳しかったから、学力の差は感じませんでした。むしろストリートに3年生になった人が中絶みの様な感じで勢いが無くて、そこに温度差を感じました。

—短大と大学を両方卒業するメリットはなんだと思いますか？

卒論が2本書けるというのは大きいですね。2年毎に1本ずつ書けるから、テーマを変えなければ自分が短大の時に書いた論文を大学に入ってからまた見直せますし、そして考察が足りないところは

考え直せます。つまり自分の研究の続きができるんです。短大のときはまた違う人脈もできます。

—なぜ国語の教師になろうと思われたのですか？

中学で国語の教員に興味を持ち、高校で古文の文法を暗記したりするのが面白いなと思い、そして短大の2年間の途中で自分が古文、漢文が好きだとはっきりしたからです。

—教師という職業に大切な事は？

生徒とまっすぐに向き合えるかどうかが大切です。何かあったときに100%の力で向かっていかないと解決しません。普段から生徒とのコミュニケーションをとり続けること、それをおろそかにしていると生徒に反発され、言うことを聞いてもらえないし対処もできないです。

—現役生に一言メッセージをお願いします

まず、人と沢山会うことです。多くの人の繋がりがあればお互いに助け合えます。そして本を沢山読むことです。本を沢山読めば、いろいろな考え方が掴めます。そして最後に、初心を忘れるなという事です。支援センターの平野さんの受け売りなのですが、どんな思いでそこに入ったのか、何をしたいのか、それらを忘れなければ間違いは無いです。



酒井智章さん
(国文学科所属、平成13年卒業。現旭川竜谷高校国語科教諭)

—サークル活動はされていましたか？

ラグビー部を立て直そうとしていた友達の手伝いでラグビー部に入っていました。しかし試合には出ず筋トレなどしてました。

—短大生活で思い出に残っていることは？

なんといっても播摩先生ですよ。私は古典が苦手でしたが、播摩先生の授業は現代のことをネタにしていたので、おもしろかったです。おもしろおかしく、魅力的な授業をしてくださった先生の授業の仕方は今教師をする上で参考にしています。また他にも見習っている先生は沢山います。短大の先生方は学生一人ひとりのことを本当によく考えてくれて、たとえ授業時間外だろうと常に優しく接してくれました。また、いろいろな地方の友達が出来たので、広い視野がもてるようになったと思います。

—編入してから大変だったことは？

勉強はがむしゃらに取り組んだからそこまでつらいとは思いませんでした。短大時代は旭川の実家から通学をしていたので、一人暮らしも最初は不安だったけれど、國短の編入生の集まりである「滝川会」のみんなと支えあいながら生活できたので有意義でした。仕送りが無いので授業とアルバイトで忙しかったですが、それがまた自分の力量を試す良い

チャンスにもなりました。ただ雪が無いのでそれで寂しくて友達と富士山なんか雪を見に行ったりしていましたよ(笑)短大と大学を両方卒業するということが、いろいろなものが見られるし、勉強に対する意欲も強くなります。他にも得るものは多いと思います。

—なぜ教師になろうと思われたのですか？

中学の時の教頭先生がきっかけです。後輩に対する私の接し方を見てくださっていたらしく、教頭先生から母に「酒井君は人に物を教える仕事についていたらどうか」というすすめがあったと聞いて、よし教師になろうと思いました。それまではバイクが大好きだったので整備士になりたいとも思っていたのですが、それから教師になりたいと強く思うようになりました。

—教師になって良かったと思われたことは？

私は播摩先生の授業に魅力を感じ、国語科の教師になろうと思ったんです。将来がわからなかった時に先生に道を示してもらって、今のように教師になることができました。私も今の生徒たちの支えになりたいと思っています。ですから一昨年の卒業生から「先生のおかげで卒業できた。先生のようにになりたい」という手紙をもらった時はとてもうれしかったです。

—今教員を目指している学生にアドバイスをお願いします

常に向上心を持ち、上を向いて歩いていってください。この仕事にゴールはありません。だからこそおもしろいのです。



星野功太さん
(國學院短期大学コミュニティ二ヶーション学科卒業。現在、國學院大學外国語文化学科を専攻し、水泳部に所属。國學院大學体育連合会幹事会経理部長(國學院の運動部全体の学生会で幹事))

生徒に対しても人対人という関わり方をした方がうまくいくと思います。最低限の礼儀は必要だし、メリハリも必要だけど基本は人を相手にしているのですからね。そして、自分も今も思っていることとだけ、常に教師になりたいと思う気持ちを持ち続けることですね。毎日気は抜けないけれど、本当にやりがいのある仕事だと思っています。

—最後に現役生にメッセージをお願いします

まず、すべてのことのがむしゃらになつて取り組んでください。夢、目標があるならたとえ何年かかっても、回り道してもいいから達成すべきだと思います。そして日々ちよつとしたことに楽しみ、喜びを見つけて欲しいです。何も無いところでも自分で楽しみを見つけていることは自分の経験から言っても大切だと思えます。最後に近場でもいいから旅をしてみることをおすすめします。色々な土地を見て、その場で学べることも沢山あります。後の人生で役に立つことも沢山あります。

—今の学科を選んだ理由を教えてください

私は短大時代に法学、経済、英語が学べるコミュニティ二ヶーション学科の中で一番興味を持ったのが英語だったからです。

—短大と大学の授業に差はありますか？
はい。覚えなければならぬ英語の文法が多くなったと強く感じます。テストも短大の時より難しいです。

—大学のメリット、デメリットは何ですか？
自分で自由に使える時間が増える分、それを持て余してしまうことですね。自分に厳しくなることが大切だと思います。

—初めての授業はどのように感じられましたか？
最初は大変でしたね。どの先生の授業が自分に合うかという情報がありませんでしたから。でも短大の集中講義で滝川にいらしていた先生方は、編入生に対して理解を示して下さい、安心できました。

—渋谷に来て不安なこと・大変なことはありましたか？
電車が慣れませんでした。1限目があるときは8時頃の電車なので、通勤ラッシュに驚きました。他には、滝川と違って交通が便利な一方で、家賃が高いことですね。授業の取り方については、1日の中で渋谷校舎とたまプラーザ校舎を往復しなければならぬ時もあるので、そのことも考えて住む場所を決めました。

—短大時代、一番思い出に残っていることは何ですか？
友達の家が近いので、よく友達の家に行きました。あとは、インターナショナル

〈担当〉澤村美菜、後藤文昭、鈴木里実、鈴木望、萩野友貴子、舟山有美

**研修先：高島屋 日本橋店****水野 祐介**

1ヵ月間働かせていただき、社会に出て働くことの厳しさを学ぶことができました。初めてやった仕事が多く、慣れるまでは大変でした。しかし、日が経つにつれて、与えられた仕事をしっかりとやれるようになると、仕事をする喜びというものを実感することができました。

お客様が笑顔でお帰りになる時、こちらも嬉しくなり笑顔でいるように努力するようになりました。他にも与えられた仕事だけではなく、空いた時間に商品の整理など自ら仕事を見つめるということも重要であることがわかりました。何事にも積極的な姿勢が大切であることを再認識でき、とてもよい経験ができたと思います。

研修先：JALトラベル**橋 ちひろ**

旅行会社は前から興味があり、今回研修に行かせていただき、大変プラスになりました。航空チケットの発行や飛行機の空席紹介などの仕事をやらせていただきましたが、他にも一人ひとりのお客様の旅行プランを立てさせていただきました。

自分の興味のある仕事のやりがいとともに、苦勞も知ることができました。何より楽しく働かせていただいたことは、1番の喜びでした。

研修先：札幌プリンスホテル**池田 美穂**

体力的に大変な仕事だということを実感できました。花形の裏側を垣間見ることができた様な気がします。

辛いこともありました。やることすべてが初めてのことで、とても充実した毎日を過ごさせていただきました。この日々を忘れることなく、この経験を将来に生かしていきたいと思っています。

**研修先：高輪プリンスホテル 七軒茶屋****舟山 有美**

今までバイトの経験もなかったので、仕事の大変さが分からず「2ヵ月くらい大丈夫なのでは？」という甘い考えでいました。実際働き始めると仕事の内容もなかなか覚えられず、戸惑ってばかりでした。

また、いつもお客様に対して最高のサービスを提供したいと思いつつも、失敗ばかりでいつも先輩方に迷惑をかけてしまいました。しかしそこからいろいろなことを学び、外国人のお客様に対しても自分の英語力のなさを痛感しつつも、自分の知る限りの英語を使い、一生懸命伝えるように努力しました。そしてお客様への目の配り方も徐々に身につけられるようになりました。

感想として、この2ヶ月間でホテルの社員としての責任の重さを実感しました。この貴重な経験から、将来の就職に生かしていきたいと思っています。

研修先：札幌コンベンションセンター**小川 浩正**

自分を受け持って下さった業務担当課や営業部長のいらっしゃる場所で常に仕事をしていたので、ずっと緊張感を持っていました。電話対応が難しく、どう対応しているのか分からず、言葉が詰まる時も多々ありました。受付の仕事では基本的に一人のお客様の質問や要望に答えたり担当者の方に引継ぎしなければならなかったのも、とてもよい勉強になりました。

研修先：ヒルトン東京**西村 信太郎**

毎日のように怒られ、辛い日々ではありましたが、社会に出るという厳しさを学べたと思います。そしてホテルマンがもつホスピタリティマインドには本当に驚かされました。普段、ゲストの立場でしかなかったのが常にサービスを受け、それが当たり前のように感じていました。そのゲストに対しての気配り、満足してもらうように努力すること。実際、自分が提供する側になると、簡単にはできるものではありません。当然のようにしてもらえらるサービスの一つ一つには計算し尽くされたものがあることを知りました。

本当にいい体験をしたと思っています。

インターンシップ

研修先：高島屋日本橋店 総務部**米元 梢**

初日は正直、立っているのが精一杯でした。上司は歩き方や立ち方、手の位置など、日頃私の生活からは考えられない細いところまで気をつけていました。また接客業はお客様と接している時間だけではなく「待機も仕事のうち」といわれ、ハッと気づかされました。

また上司の働く姿を見て、お客様を1番に考えている姿に、「プロだな」と感じました。

研修先：石屋製菓 チケットカウンター**眞田 文絵**

出勤時刻が登校時刻よりも早く、朝起きて準備するのが大変でした。接客をしなくてはならないので、身だしなみには気をつけました。地下鉄での通勤時間は石屋製菓のパンフレットを見て、どこに何があるのか、館内で何をすることができるといったことをしっかり頭に叩き込み、お客様に質問された時に即座に答えられるように努力しました。

研修先では上司が丁寧に教えて下さって、最後には自分で仕事を見つけて、働けるようになっていたと思います。

また海外の団体のお客様も多く、語学力の必要性を感じました。そこで学生生活に戻ったら、英語の勉強に力を入れようと決意しました。

**研修先：新高輪プリンスホテル エーデルワイス****荻野 友貴子**

何もかもが初めての経験で、研修開始1~2週間は8時間半立っていることさえ苦しくて仕方なかったです。どんな職業に就いたとしても同じことかもしれませんが、勤務形態も不規則だったので、基本は体力だと思いました。

直属の上司は厳しそうだったので、怒鳴られるか心配でしたが、マネージャーの「彼女についていけば1ヵ月でどこに出ても恥ずかしくない女の子になれるから」という言葉を励みに、少しでもいろいろなことを吸収しようと努力しました。

忙しい毎日でしたが、終わってみると大変充実した2ヵ月間でした。最後にマネージャーからの「君の武器は笑顔だ」直属の上司からの「よく頑張った。もっと自分に自信を持ちなさい。また働きにおいて！」と、言って下さったこの言葉は、私の一生の財産です。

**研修先：JAたきかわ****菱木 裕治**

業務内容は接客、品出し、袋詰めなどでした。研修の1日目に「見知らぬ人に『いらっしゃいませ』を言える度胸をつけるように」と言われたことが印象的でした。

それとともにお客様に商品の位置を聞かれることが多かったのも、早く商品の位置を覚えようと思いました。お客様の要望に答えることが、サービスの真髄だと改めて感じました。

社内の人たちとの交流の中で、挨拶は欠かせないものだと思いました。

**研修先：日本赤十字 業務課****川村 寿里**

自分が興味を持っていた日本赤十字でインターンシップが出来たことを嬉しく思います。どんな業務を行なっている会社なのか分かり、献血の大切さや、患者さんの気持ちを深く考え、理解しようとする大切さを学びました。そして会社の中で社会人としての意識を持ち、仕事をする大切さや人と人との関わり方、社会人としての基礎をしっかりと学び、理解できたと思います。





児童教育コースでは小学校教諭2種免許が取得できるコースになっていきます。しかし、取得できるといっても簡単なものではありません。そこで國學院短期大学では少人数制をもとに、学生たちに2年間で取得できるようにバックアップしています。短大なので大卒とは違い4年間という長い時間はありません。しかし、採用試験を受けるまでには4大生と同じレベルまで達し

てい必要があります。そこで集中した2年間を送ることができるといいます。いくつもの対策をたてています。少数制でのきめ細かい、1人ひとりに応じた指導の実例として、得意教科の強化のために1クラス6名程度に分かれ、1年間基礎学力をつけるというゼミ学習などにも取り組んでいます。



笹木先生

平成18年度から國學院短期大学に新しく児童教育コースが開設されました。

教師は子どもの夢を育てる仕事～國學院短期大学 児童教育コース開設～

國學院短期大学のある滝川市は文部科学省からコミュニティ・スクール制度の指定を受けています。その拠点になっているのが國學院短期大学に隣接する滝川東小学校なのです。児童教育コースの学生はこの立地条件を生かして子どもと触れ合う機会を多くつくっています。運動会、遠足など9つの学校行事に参加し、体験的に学ぶことができます。現場で先生方の教え方を直接自分の目で見て体験する。机上だけでなく、実際に子どもと触れ合いながら学ぶことを重視しているのです。指導の方法も自分たちで練り、実践的な力をつけるようにもしています。このような環境の中で自分の夢を実現する意欲を持った人が集まって欲しいのです。教師という夢を持ち、実現のために努力し、小学校の教師として大きな能力を身につけられるようにしていきます。是非、この國學院短期大学での有意義な2年間で、子どもの夢を育てる先生という仕事を目指してみませんか。

平成19年度 國學院短期大学入学試験日程

入学方式	選考日
社会人入学者奨学生入学1次選考	
指定校制学校推薦Ⅰ期、公募制学校推薦第Ⅰ期、自己推薦第Ⅰ期、社会人・帰国子女特別入学第Ⅰ期	10月28日(土)
指定校制学校推薦Ⅱ期、公募制学校推薦第Ⅱ期、自己推薦第Ⅱ期、社会人・帰国子女特別入学第Ⅱ期	11月18日(土)
指定校制学校推薦Ⅲ期、公募制学校推薦第Ⅲ期、自己推薦第Ⅲ期、社会人・帰国子女特別入学第Ⅲ期	12月9日(土)
一般入学A方式、自己推薦第Ⅳ期、社会人・帰国子女特別入学第Ⅳ期	1月28日(日)
一般入学C方式第Ⅰ期、自己推薦第Ⅴ期、社会人・帰国子女特別入学第Ⅴ期	2月23日(金)
一般入学C方式第Ⅱ期	3月9日(金)
一般入学B方式、自己推薦第Ⅵ期、社会人・帰国子女特別入学第Ⅵ期	3月13日(火)
一般入学C方式第Ⅲ期、自己推薦第Ⅶ期、社会人・帰国子女特別入学第Ⅶ期	3月26日(月)

入学方式	選考日
第Ⅰ期選考	10月28日(土)
第Ⅱ期選考	12月9日(土)
第Ⅲ期選考	2月23日(金)
第Ⅳ期選考	3月26日(月)

担当：西村 信太郎、後藤 文昭、鈴木 望

「國學院大学 学びへの誘い」札幌セミナー「第一回公開古典講座」開催 —70余年の伝統ある講座が津軽海峡を渡りました—



國學院大学の公開講座は、「生涯学習」のことば自体が一般化していない昭和4年7月、「萬葉講座」を開催して以来、大学と社会をつなぐ架け橋の役割を果たしてきました。この流れを汲む「公開古典講座」が國學院大学・國學院短期大学共催で、去る10月1日(日)に札幌で開催されました。当日は「源氏物語」「万葉集」をテーマとして4講座が開講されましたが、参加者からは「わかりやすい」「本物の古典籍にふれ興味深かった」「久しぶりに古典文学に触れ、学生時代を懐かしく思い出しました」など好評をいただきました。

この「公開古典講座」は、今後毎年1回札幌で開催される予定です。

学生ボランティア隊活躍中

本学では奉仕活動に参加したい学生へ機会と情報を提供する「國學院短期大学ボランティア実行委員会」制度を今年度からスタートしました。現在60名の学生が登録して活躍しています。

ボランティア隊活動記録

- 6月 北海道植樹祭(滝川市丸加高原)
菜の花祭り(滝川市丸加高原)
クリーン作戦(短大近郊地域)
(國學院短期大学家主連絡協議会・地元老人クラブ、東小PTA共催)
國學院短期大学サマーフェスタ
～大蔵流狂言公演・絵巻物の展示～
- 7月 バスケットボール殿堂館移動展(滝川美術自然史館ほか)
たきかわ夏まつり～GOKAN～(滝川ベルロード)
- 8月 駅前ひろば く・る・る 「夏まつり」(スマイルビル)
- 9月 國學院短期大学アイヌ文化交流会
たきかわコスモスマラソン
駅前ひろば く・る・る 「収穫祭」(スマイルビル)
- 10月 國學院短期大学コスモスウォーキング

平成19年 開学25周年記念 屋外運動施設としてパークゴルフ場を造成!!



國學院短期大学では開学25周年を記念して、短大敷地内にパークゴルフ場を造成することになりました。仮オープンは平成19年秋、本格的には平成20年春の開場となる予定です。

このパークゴルフ場は完成すれば4コース・全36ホールとなり、学生の正課授業として活用されるとともに、滝川市民の皆様にもご利用いただけるものとなります。その中には特に高齢者や児童、身体の不自由な方にもご利用いただけるコースも作られる予定です。

また、パークゴルフ場には「万葉の小径や花園」が作られ、いにしえより生命を繋ぐ日本古来の植物や花々を折々に楽しんでいただく予定です。

コース監修にはのしろや秀樹氏(滝川市出身、パークゴルフレポーター、5000人パークゴルフ交流会実行委員長、のっキー新聞友の会事務局局長)があたり、地元の「滝川市パークゴルフ協会(湯沢鉄雄会長)」のご協力を得て進められています。

今から完成後にパークゴルフ場でお年寄りと小学生達の仲良く談笑する様子や、本学専攻科福祉専攻(介護福祉士)および小学校教諭養成課程の学生達の澆刺とした会話に聞こえるようです。市民と学生達との心の交流が一層進むことが期待されています。

又、学生のサークル活動のかたわら、小、中、高、大の対抗試合などの開催をしていきたいと思っております。

國學院短期大学同窓生の皆様へ

國學院短期大学は平成19年に開学25周年を迎えます。

卒業生の皆様には、それぞれのお立場でご活躍のことと拝察し、心よりお慶び申し上げます。

本学では、25周年の記念事業を実施すべく現在準備を進めているところです。

このご案内や大学の近況を卒業生の皆様にお知らせ申し上げたく存じますので、皆様の住所をお知らせ下さい。

〒073-0014
北海道滝川市文京町3-1-1
國學院短期大学同窓会 係
電話0125-23-4111
FAX0125-23-5590
e-mail: arisukai@kokugakuin.jp

※ご連絡いただきました個人情報は、國學院短期大学をはじめ学校法人國學院大学の各種情報提供並びに、國學院短期大学同窓会(ありす会)の情報提供のみに使用いたします。

読書の秋

10月になると、夕暮れは5時にやってきます。長い長い秋の夜の始まりです。肌寒い外を逃れて、たまにはのんびり家の中で本を読んでみませんか？

今回は「秋」と「隠れた名作」をテーマに、子どもだけではなく大人も楽しめる絵本を、紀伊國屋書店札幌本店・店長代理の伊藤雅之さんに紹介していただきました。

「どうぞのいす」

25年のロングセラー
うさぎさんが小さなイスを作
って、「どうぞのいす」という
立て札と一緒に大きな木の下に
置きました。最初にやって来た
ろばさんは、持っていたどんぐ
りをイスに置いて木の下の昼寝
を始めてしまい……
可愛い絵と心温む話で、絵本
の中でも入門編として1年を通
して売れている本です。動物た
ちがイスに置いてあったものを
食べてしまった代わりに、自分
の持っていたものを置いていく
という思いやりを感じさせてく
れる絵本です。



「もりのかくれんぼう」

とても楽しいかくれんぼ
公園で遊んだ帰り道、けいこ
は見知らぬ森に迷い込んでしま
いました。そんなけいこの前に
現れたのは、不思議な男の子。
そして、男の子や動物たちとか
くれんぼをすることに……
黄色や赤、オレンジ色に染ま
った秋の森でのかくれんぼ。森
の中をじっと見つめてみてくだ
さい、森の動物たちが色々な所
にかくれています。



「おやすみなさい おつきさま」

おやすみなさい、と言いた
くなる
こうさぎが眠ろうとベッドに
入りました。部屋の中のものや、
窓の外に見えるものに「おやす
みなさい」と語りかけていき……
：
なんだか、ちょっと日本の物
語という雰囲気がいまませんよ
ね？ 実は、アメリカで読み継
がれていたものを翻訳した絵本
なんです。アメリカで生活した
ことのある人には、とても懐か
しい一冊です。雅子様も幼少の
頃にお読みになっていた絵本だ
そうです。



「ぼくんち カレーライス」

カレーの匂いがしてきてもう
カレーライスが食べたくなっ
た男の子が、カレーの材料を買
いに行きます。そうしたらどう
でしょう、みんなカレーが食べ
たくなって……
とてもシンプルなストーリーリ
なのにおもしろく、絵も楽しい
作品です。
この絵本を読んだら、きっと
晩ご飯をカレーにしたくなるで
しょう。



今回の取材に協力していただ
いた紀伊國屋書店・札幌本店の伊藤
雅之店長代理、ありがとうございます
ました。



CATYスタッフのおすすめ

『ミッケー！』

おもちゃやトランプ、チェスの駒、
画面いっぱい敷き詰められたビー
玉。学校だったり、お化け屋敷だっ
たり。いろんな場所、いろんなものの中
から隠されたものを見つけて出すのが
『ミッケー！』です。「ウォーリーを探せ」
を思わせる『ミッケー！』は、『チャレ
ンジ ミッケー！』も合わせると11シリ
ーズが出版されています。探し終わっ
てしまっても、写真の中には文章に書
かれていなかったものが隠れていたり
します。問題を作って出したり、
何が隠れているのかをじっくりと探す
のも良いですよ。

滝川に縁のある著者の本

『気品のある生き方』 著：小川義男

教育に携わってきたからこそ、伝えたい

CATYスタッフの中で、小川義男先生が校長先生をされている高等学校を卒業した学生がいました。そこで小川先生を知り、滝川市出身者ということで滝川にゆかりのある小川先生の『気品のある生き方』を紹介します。

北海道で生まれ、道立滝川西高等学校、北海道教育大学札幌分校を卒業。北海道および東京都で公立小学校の教諭・教頭・校長を歴任後、現職である私立狭山ヶ丘高等学校校長に就任。そんな著者のエッセイ『気品のある生き方』には、自身の体験をふまえながら、読書の大切さ、品格と気骨ある生き方、社会問題への提言など、今を生きる学生・父母に伝えたい思いが綴られています。読みやすく、筋の通った考えに感銘を受ける部分は少なくないはずです。

〈担当：遠山 佳苗、小畑 智未〉

Club Caty Tokyo

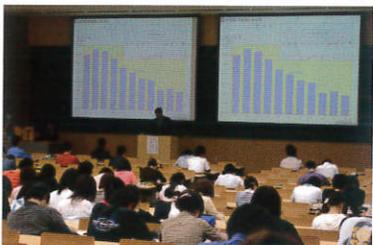
國學院大學 (渋谷)

キャリアデザイン 特別講演会

総合企画部 浜田部長に聞く



國學院大學総合企画部
部長 浜田順一氏



今回の講演の目的をお聞かせください。
今回の講演会には、現役学生の就職に備えて、それぞれが自分の将来を考えるきっかけを作ってもらおうという目的がありました。しかしそれにも増して、学生に社会とのつながりをより具体的に意識して欲しかったのです。アルバイトやボランティアなどさまざまな課外活動をしている学生は大勢いると思いますが、本当の意味での社会との接触となると、学生時代にはその機会が限られているのが現実ですね。そこで、各業界の第一線で働いている方々から、「これが企業だ」「これが社会だ」という生の声を聞くことにより、

世の中にはどんな仕事があり、そこではどんな人がどのように働き、さらに社会人というものは実際には何をやるものなのかを知ってもらうため、今回の講演会を企画しました。今後も学生のうちにこうした機会に度々触れて、進路について真剣に考え、大学の外にある社会の動きを少しでも多くつかんで欲しいですね。そのため今回は、各界で長年に亘り経験と実績を積み、自信を持って自らの体験談を話してくれる方を探した結果、4人の方に講演をお願いしたわけです。学生個人でこのような話を聞く機会を得ることは、なかなかできないと思いますからね。

講演を終えて、具体的な成果は感じられましたか。

今回は、あくまでも学生個人の自由意思で参加してもらった講演会だったので、当日参加してくれた学生は

毎回200人近くにはのぼり、会場には1年生から4年生まで幅広い学年、学部が学生が来ていました。講演後に設けた質問タイムでも、積極的にたくさん質問が出たことに正直なところ驚きました。また、会場での着席状況を見ても座席も前の方から埋まって行きました。これは以前の國學院生にはあまり見られなかった光景なのですよ。聴く側にはいつもと違う熱気や積極性が感じられました。講演会後の参加者アンケートを読んでも、「もっと話を聞きたかった」「個人的に話をしてみたい」という、前向きな声が多かった。かなりの数にのぼりました。今回の講演会を通じて、社会で働くとはどういうことなのか、業種や職種にはどんなものがあるのかなど、当初の目的どおり、参加した学生一人ひとりが、それぞれ自身に問い掛けをする良いきっかけになったのではないかと思います。イベントの仕掛け人としては、各業界の裏話や、講師の方々の本音をどこまで話していただけるかが気掛かり

でしたが、無事に終了して、まずは胸を撫でおろしているところです。今回は國學院短期大学から、渋谷の本学へ編入学して来た学生さんに準備作業から裏方全般をお願いしました。みんな期待に込めてとてもよくやってくれました。大学側としては大いに感謝を受けています。

受講した学生にメッセージを
各企業の第一線で働いている人たちは、理屈や義務で仕事をしているのではないのです。意欲と努力、そして社会人としての責任感と誇り。それぞれが講演を聞いていて、これがすべて講師の方々の仕事に対するモチベーションだと私は感じました。さて皆さんは、今回の講演会でいったいどんなことを感じ取られたでしょうか。企業で働くということ、社会人になる気構えなどを直に肌で感じ、少しでもその具体的なイメージを描いてもらえたならば、「仕掛人」としては何よりも嬉しいですね。



▲セミナーの内容については同紙に詳しく紹介されています。

担当：島添 美智子

キャンパス情報 Campus Information 2006年 4月~10月

4月

- 入学式
- 入学式特別講演
- オリエンテーション
- 健康診断
- 宿泊研修 (国文・コミ1年)
- 教養総合第一回開講



サマーフェスタ

5月

- 國學院短期大学セミナーCATY第一回開講 (札幌)



サマーフェスタ

6月

- オープンカレッジ開講
- クリーン作戦 (短大近郊地域)
- 北海道CATY・ミニコミ誌「CaCiCo-カシコ-」創刊号発行
- 2006サマーフェスタ開催 (滝川市・國學院短大共催)
- ありす祭
- 教養総合第三回、四回開講
- 國學院短期大学セミナーCATY第二回開講 (札幌)

7月

- 國學院短期大学セミナーCATY第三回開講 (札幌)

8月

- 第一次長期インターンシップ実施



アイヌ文化交流の集い

9月

- ベカンベ祭り開催
- 第6回アイヌ文化交流の集い—
- アニメワークショップ
- 國學院短期大学セミナーCATY第四回開講 (札幌)

10月

- 第一回「公開古典講座」開催 (國學院大學・國學院短期大学共催)
- 「2006年 第4回作文コンテスト」表彰式
- 国語教育研究会
- 國學院短期大学コスモスウォーク
- 第一回「学びへの誘い」開催 ~いにしへの日本を探る~ (國學院大學・國學院短期大学と北海道新聞社「道新ぶんぶんクラブ」との提携文化講座)
- 國學院短期大学セミナーCATY第五回開講 (札幌)
- 教養総合第五回、六回開講

学生時代は、
まっさらなところからチャレンジできる時。
若い感覚、感性を育てて行って欲しい。



と。4年間、何をしても良い、時間をどう使っても良いわけだからね。いろいろなことを経験したほうが良いと思いますよ。それなのに、今の学生はそれをうまく活用できていない気がしますね。もったいないですよ。たっぷり時間があるのだから、好きなどころに旅行に行くもよし、何かに打ち込んだり、勉強したりするもよし。有効に使って欲しいですね。その価値に気づかないのかもしれないけれど、社会人が好きなように使える時間なんてごくわずかですから。逆に言えば、何もしないでんびり過ごせるのも、学生の特権かもしれないけれども。いろいろな経験から自分の好きなこと、やりたいことが見つかるかもしれないですね。それを基準に仕事を決めていけば良いのです。

テレビ朝日の就職に関して言えば、國學院生にもっと受けてもらいたいですね。現状では少ないんです、國學院から受ける人は。いろいろなタイプの人がいたほうが、仕事はうまくいくものです。今は学歴・資格よりも、面接でその人の人柄を見て、その人が伸びるかどうかが、一緒に仕事ができるかどうかで判断しています。決して特殊な能力が要るわけではなくて、常識があつて、挨拶ができる、共同作業ができる、そういう当たり前なことがきちりできる人を求めています。重要なのは、好奇心旺盛かどうかということでしょうね。これは、テレビ局に向いているかどうかの判断基準になると思います。テレビの世界というのは華やかだけではなありません。地味な作業がたくさんあります。何もな

ところから創り出す仕事ですからね。番組制作をしたくて入ってくる人が大半ですが、イメージと違うと戸惑う人がいるのも実情です。

自分が何をやりたいのかわからないという学生もたくさんいますが…

よくわからないままとりあえず就いた仕事でも、その仕事を一生懸命やっている中で自分のやりたいことが見つかることも多いです。工夫しながらすることで、面白さや新たな発見が生まれます。社会での経験から初めて知る自分もたくさんいる。一生懸命やっていたら、発見があつたり感動があつたりするものです。それを感受する感性を持っていて欲しいですね。

最後に一言、学生に向けてアドバイスをお願いします。

学生時代というのは、時間が自由にあつて、まっさらなところからチャレンジできる時です。無駄にしないで、若い感覚、感性を育てて欲しいと思います。今持っている自分の良いところを意識しておいてください。優しいか思いやりがあるとか、何でも良いのです。意識して、忘れないようにすることが大事です。のんびんだらりと過ごすのではなく、志を持って充実した時間を過ごして欲しいですね。若い人にはたくさん可能性があるから、うらやましいですよ。

〈キャリアデザイン特別講演会時は、人事局長を勤められていました〉

やりたいことは「今」やるべし ～時間と可能性をもてあます若者たち～

インタビュー：
株式会社テレビ朝日
番組審査室長 木村寿行氏



國學院大學は、まじめとか地味とよく言われるのですが、木村さんのもたれるイメージはいかがですか。

「かたい」「地味」という感じはするね、たしかに。ひとりひとりはそのうでもないんですけど、全体としてはそういうイメージを持たれているんじゃないかな。たぶん周りも知らないんじゃないかな。もっとPRしていったほうが良いんじゃないかな。國學院出身のいろいろな分野の著名人を招いて講演してもらったり、もっとオープンなイメージを作

つたほうがいいかもしれないね。講演にお越しいただいて、そのイメージに変化はありましたか。

講演は好意的に聞いてくれていたようでしたね。学生さんの印象は、ゆっくり話す時間がなかったのと言えないけれども、キャンパスは新しく若々しい感じがしました。古くて伝統的な重たいイメージかと思っていたら、雰囲気はぜんぜん違いましたね。学生にしても学校にしても、そういうところをもっと積極的

にアピールしていけば良いんじゃないかな。

今、日本の良さを見直そうという流れがあるでしょう。アメリカや西洋だと言っていたのが、日本って良い国だね、日本人ってすばらしい、もう一度日本を見直そうという風潮が広がってきている。國學院大學というのはそのような部分を大事にしてきた大学でしょう。新しさの反面、日本の良さというものをもっと勉強して、この世の中に伝えていく役割を担えるんじゃないかな。

わたしはちょっとしたきつかけでこの歳になって俳句を始めたんだけど、これが面白いですよ。若い人もはまってますね。俳句って決して年配の人だけのものではなくて、自分の感性を表現するものだから、若い人も面白いはずですよ。國學院大學はそのような日本文化の大地を持っているのだから、若い人たちにもっと俳句とか短歌、漢文なんかのすばらしさ、面白さを伝えて欲しいですね。アピールして行って欲しい。今の若い人たちの感覚でしかない俳句もあるんです。

就職に関して学生にメッセージをお願いします。

就職してから思うのは、学生ってものすごく恵まれているというこ

発行： 國學院短期大学
 〒073-0014 北海道滝川市文京町3丁目1番1号
 TEL：0125-23-4111

北海道・滝川市
 〒073-8686 北海道滝川市大町1丁目2番5号
 滝川市役所 総務部企画課
 TEL：0125-23-1234

制作： キャレンハウス
 村井 弘
 (國學院短期大学兼任講師 『北海道CATY』編集・制作室長、キャレンハウス代表)

編集： 『北海道CATY』編集・制作室

國學院短期大学学生スタッフ

- | | |
|--------|-----------------|
| 櫻庭 章浩 | (コミュニケーション学科2年) |
| 門田 樹 | (コミュニケーション学科2年) |
| 西村 信太郎 | (コミュニケーション学科2年) |
| 澤村 美菜 | (コミュニケーション学科2年) |
| 伊集院 久智 | (コミュニケーション学科2年) |
| 荻野 友貴子 | (コミュニケーション学科2年) |
| 舟山 有美 | (コミュニケーション学科2年) |
| 平本 光 | (コミュニケーション学科2年) |
| 鈴木 里実 | (コミュニケーション学科1年) |
| 鈴木 望 | (コミュニケーション学科1年) |
| 笠原 智代 | (コミュニケーション学科1年) |
| 遠山 佳苗 | (国文学科2年) |
| 赤松 美由紀 | (国文学科2年) |
| 浦島 奈都美 | (国文学科2年) |
| 後藤 文昭 | (国文学科1年) |
| 小畑 智未 | (国文学科1年) |

- 顧問： 渡辺 俊一
 (國學院短期大学産学連携教育研究所所長)
- 牧野 多聞
 (國學院短期大学コミュニケーション学科長)
- 播摩 光寿
 (國學院短期大学国文学科教授)
- 黒阪 陽一
 (國學院短期大学幼児・児童教育学科長)

編集協力： 館 敏弘
 (北海道滝川市総務部企画課長・國學院短期大学担当)

- 短大担当： 平野 富康
 (國學院短期大学事務局次長・入試広報室長)
- 猿嶋 久美子
 (國學院短期大学コミュニティカレッジセンター課長補佐)
- 栗林 広子
 (國學院短期大学コミュニティカレッジセンター)

【CLUB CATY TOKYO】

協力： 國學院大学総合企画部広報課
 國學院大学総合学生センター事務部学生課
 國學院大学院友会

(CLUB CATY TOKYO編集チーム)

- 編集： 島添 美智子 國學院大学文学部3年 (國學院短期大学卒業生)
 濱地 倫子 國學院大学経済学部3年 (國學院短期大学卒業生)
 増田 英里子 國學院大学文学部3年 (國學院短期大学卒業生)

- サポーター： 工藤 裕子 國學院短期大学入学アドバイザー
 (國學院大学文学部卒業生)
 藪崎 志緒子 國學院短期大学入学アドバイザー
 (國學院大学文学部卒業生)

デザイン： 藤井 達也 (fujidesign)

印刷： 三巧印刷

協力： 滝川市の皆様
 紀伊國屋書店
 制作に携わっていただいた関係者の皆様

アンケートにお答えください

アンケートにお答えくださった方の中から抽選で、粗品を差し上げます。
 住所・氏名・年齢・職業を明記の上、下記宛先までお送りください。

アンケート

- ①『北海道CATY (キャティ)』をどこで知りましたか？
- ②今号で面白かったもの。(いくつでも)
- ③今号で面白くなかったもの。(いくつでも)
- ④取り上げて欲しい企画
- ⑤『北海道CATY』へのご意見、ご要望など。

CATY フォト募集

地元を感じさせてくれる写真。家で撮ったおもしろ写真。どんな写真でも良いので、是非ご応募ください。
 応募された中からいくつかを、CATY11号に掲載する予定です。

住所・氏名・年齢・職業を明記の上、下記宛先までお送りください。
 メールでも募集しているので、携帯からのご応募もお待ちしております。

宛先

〒073-0014
 北海道滝川市文京町3丁目1番1号
 國學院短期大学 北海道CATY編集・制作室
 アンケート係
 e-mail caty@kokugakuin.jp
 締切り 平成19年1月31日

※応募にあたりご記入いただいた個人情報(住所・氏名・年齢・職業)は粗品の発送、及び國學院短期大学からのご案内の発送などに使用します。

CaCiCo~Campus and City mini Communication~ 創刊号発行



CaCiCo-カシコー 創刊号
 (2006年6月発行)

今年から、北海道CATYの姉妹紙として小さなCATY『CaCiCo』を発行しています。
 滝川市内を中心に約600部を配布しております。
 より地域に密着した情報を掲載しておりますので、是非読んでみて下さい。

主な配布先： (道内)
 北海道滝川市内、近隣4市5町市役所・町役場他
 紀伊國屋書店札幌本店、札幌オーロラタウン店、札幌口フツ店、厚別店、小樽店、千歳店 (6店)
 (道外)
 國學院大学渋谷キャンパス、たまプラーザキャンパス、國學院大学院友会本部
 紀伊國屋書店新宿本店、横浜店 他
 (その他)
 本学学生の出身高等学校へ送付しています。

発行部数： 20,000部

日本文化の発信拠点を目指して ~國學院大學のRootsに迫る~



インタビュー：
 國學院大學文学部
 青木周平教授

同じ渋谷という都心の環境にあつて、ともに「学院」という名前のつく大学、青山学院大学と國學院大学の違いを教えてください。

これはですね、まずこのばの構成から違うんです。青山学院大学というのは、「青山(地名)」にある「学院」という意味なんです。学院というのは明治学院や、設立当初は上智学院と呼ばれていた現在のの上智大学がそれであるように、本来はキリスト教系の大学なんです。

それに対して國學院大学というのは、もちろんキリスト教系の大学ではありません。そして、「国」の「学院」ではなく、「国」の「学」の「院」なんです。つまり「国学」

を学ぶための「院」というわけですね。国学とは読んで字のごとく、国について学ぶということです。国の成り立ちとか、基(もと)い、特に精神面で日本人とは何かということを探求することが、国学という学問の持つ本質です。また国学というのは、世界各国に存在します。韓国には韓国の、中国には中国の国学があるわけ、そういう中で國學院大学は、日本の国学を学ぶ大学という意味。そのため國學院大学と名乗っているわけですね。

国学を学ぶ大学、國學院大学とは、ではもう少し詳しく説明しましょう。国学とは具体的に言えば、国史(歴史)・国文(文学や言語)・国法(法律。古くは律令)を学ぶ学問です。有栖川宮徳仁親王の「凡ソ學問ノ道ハ本ヲ立ツルヨリ大ナルハ莫シ」、これは校歌の1番の中にもある「国の基を究むるところ」にあたるんですが、この精神のもとに、山田顕義伯がこの国史・国文・国法を学ぶ大学として創設したのが國學院大学なんです。学生手帳や大学のホームページにも「建学の精神」として詳しく載っていますので、在学生は是非一度読んでみてください。新しい発見があると思いますよ。

しかし、実際は国史・国文・国法といってもわかりにくいですね。そこで、國學院大学では、この国学を「日本文化」という言葉に置き換えて、これを体系付けて研究し、世界に向けて発信する役割を担っています。これはCOE(注1.. Center of Excellence)に人文科学系で指定された大学ということで、文科科学省から義務付けられた役割でもあるんですよ。大学ではこのCOEのテーマに「神道と日本文化の国

学的研究発信の拠点形成」を掲げ、日本の国学研究の第一人者の自覚のもとに取り組んでいます。

大学の置かれている現状、そしてこれからの展望をお聞かせください。

國學院大学はまた、歴史ある、素晴らしい資料を多数所有、そして所蔵しています。にも関わらず、これまではこうした貴重なものを学外に紹介する機会が限られていました。そこで大学では、学術メディアセンター(Academic Media Center)の設立に現在積極的に取り組んでいます。今、常磐松校舎の跡地を工事しているでしょう。このセンターはあそこ建設されることになるんですよ。AMCでは、インターネットを通じて世界中に國學院の資料・研究成果などを発信します。さらにここには、一般の方も自由に見学できる学術資料館が併設される計画で、現在の大学図書館もここに組み込まれることになっています。まさに國學院の学問がここに結集されるわけです。これまで概して研究室内に偏りがちだった國學院のさまざまな学術的な研究成果を地域や日本国内、さらには世界に向けて発信するという、絶好の環境がいよいよ整うわけです。完成は平成20年の予定です。

現段階でも、國學院大学にはさまざまな国から留学生、研究者が訪れています。韓国や中国、ついこの間まで私のもとで本学の招聘研究員として風土記の研究をしていたのは、遠くスウェーデンから来ていた男性でした。風土記というのは外国の方の興味も惹きつけるようですね。私にしている大学院生の中にも、やはり風土記を研究しているオーストラリアの女性がいいます。

※注1:COEとは
 21世紀COEプログラムは、10の学問分野について世界的研究教育拠点を形成しようとする計画。「研究上ポテンシャルの高い大学の研究教育分野に対し、創造的な人材育成を加味した重点的な支援を行う」プログラムで、2002年度は(1)生命科学、(2)化学・材料科学、(3)情報・電気・電子、(4)人文科学、(5)学際・複合・新領域の5つの学問分野が対象となった。

このように、国学というのは世界的に見ても歴史ある、極めて興味深い研究対象なんです。これからの國學院大学は、日本の国学研究を広く世界に向けて発信するとともに、外国の若い人達にも呼び掛けて、実際に日本で生活しながら、日本文化の素晴らしさを肌で感じながら勉学に励んでもらう環境の担い手になりたいですね。そして将来、彼ら留学生や研究者たちがそれぞれの母国へ戻ってからも、日本の素晴らしさを自分たちの言葉で語り続けてもらえる好循環をつくることでしよう。残念ながら世界的な視野に立つと、日本文化というのはまだまだマイナーな存在と言わざるを得ません。しかしこれまで述べた通り、日本文化の素晴らしさを日本独特の伝統の良さを海外に地道に伝えていくことは、経済分野のみならず、日本という国全体のさらなる発展につながるのだと私は強く感じています。こうして考えてみると、國學院大学は日本の将来にとつての重要な一翼を担っているとも言えます。学生の皆さんにも是非その自信と誇り、そして何よりもまずそうした自覚を持っていただきたいですね。やるべきことはたくさんあります。ぜひ、いっしょに頑張りましょう。

北海道新聞

2006 Autumn
『北海道CATY(キャティ)』
ニュースプラザ

知得
北海道

1日「公開古典講座」
4テーマ
国学院大(東京)と国
学院短大(滝川市)は共
同で「公開古典講座」を
テーマごとに4講座を

10月1日午前10時半か
ら、小樽商大札幌サテラ
イト(札幌市中央区北5
西5, sapporo 55
ビル3階)で開く。
テーマごとに4講座を
4テーマへ。

▲2006年9月26日(火) 第33面

教授が「源氏物語の魅力
絵巻で読み解く」と題
して講演した写真Ⅱ。
同クラブの会員六十人



源氏物語の世界
絵巻で読み解く
教養講座始まる
道新ふんぶんクラブと
国学院大(東京)、国学院
短大(滝川)共催の教養講
座「いにしへの日本を探
る」(全六回)が二十一
日、札幌市内で始まり、
国学院大文学部の秋沢互

が出席。平安朝文学など
が専門の秋沢教授は「源
氏物語」の「夕顔」の巻
を取り上げ、出席者全員
で朗読した後、現代語訳
を説明。同教授は「(夕
顔は)最初から謎めいた
雰囲気が始まる」などと
解説し、当時の時代背景
なども紹介した。
また、秋沢教授は「源
氏物語絵巻」などとも
に「源氏」を読む楽しみ方
も披露した。「図録で確
認しながら読み進めると
物語の世界が広がりま
す」と話し、関心を
集めた。

▲2006年10月22日(日) 第33面

最優秀に
川村さんら



※写真は北海道CATY撮影

国学院短大作文コン
員長とする第四回国学院
短大作文コンテストの入
賞者が決まり二十二日、
滝川市文京町の同短大で
表彰式が行われた。

海老沢泰久さんを審査委
員長とする第四回国学院
短大作文コンテストの入
賞者が決まり二十二日、
滝川市文京町の同短大で
表彰式が行われた。

テーマは「家族」と「友
きと敬意を表現してい
る。大げさでなくても描

二十一校から合わせて九
百六十編と過去最高。
最優秀の海老沢賞に
は、川村美侑さん(空知
管内・新十津川小三年)
の「大好きな親友」、岡
田紫さん(滝川第二小四
年)の「ぜんぜん、きき
めなし」、中島沙綾さん
(滝川・江陵中三年)の
「家族」、高橋天希さん
(日高管内・えりも高二
年)の「弟」がそれぞれ
選ばれ、海老沢さんから
賞状が手渡された。
講評で海老沢さんは、
高橋さんの作品を例に取
り「淡々とした文章で驚
きと敬意を表現してい
る。大げさでなくても描

▲2006年10月23日(月) 第28面

北海道新聞をテキストに就職活動を一步リード!

道新就活

参加費 無料

オープンセミナー

2006 10.18 wed

第1部「決められる人材、就活を勝ち取るために」
パネルディスカッション&質疑応答
国内の有名な企業の人材採用担当者と学生社員が参加
●北海道新聞・日経産業新聞・ニッセイ北支店
●北海道電力・北海道新報社(隔年)

第2部「就活特別セミナー」のご案内
(11月20日(月)開催)
(詳細は最新HPのセミナー/イベントページをご覧ください)

開催日: 2006年10月18日(水)午後6時30分
会場: 道新ホール 札幌市中央区大通西5丁目
主催: 北海道新聞・道新キャリアセンター
協賛: 北海道新聞協会・UHB・AIRSO
協賛企業: Forum Haboro 55 札幌CATY(DC) 他
対象: 大学生・院生・大学院生
参加費: 参加費は無料
申し込み先: 北海道新聞キャリアセンター
http://www.joback2006.com
お問合せ先: 北海道新聞キャリアセンター
TEL: 011-233-1111
FAX: 011-233-1112
E-MAIL: joback@hokkaido-nippo.co.jp

▲同セミナーで『北海道CATY(キャティ)』は企画運営に
参加しています。